

## ■ (仮称) 第4期県立高校将来構想答申中間案 意見聴取における対応方針

No.	意見聴取の種別	主な御意見の内容	対応方針	章	中間案	最終案 実施計画 その他		
						最終案	実施計画	その他
1	パブリックコメント	学校の授業に民間企業を参加させる方針の様だが、高校の学習が、個人を伸ばす物でなく、企業の為の物に変わってしまわないか心配だ。 社会の変化や科学の進歩で、高校で学ぶべき内容は増え続けているのに、未だに高校教育は義務化されず、年次も中・高で三年ずつつまり。 本当に一貫で20歳まで学べるくらいが理想のはず、成人年齢の引下げに加え、企業が必要とする授業内容だけを優先されたのでは、それ以外の人として必要な教養が、削られてしまうのではないか。企業教育と学校教育はきちんと分け、学校を企業の為に仕立てる若者を作るのはしてほしくない。	○参考意見とさせていただきます。 企業のためだけ、ということではありませんが、卒業後の進路を現実的に考えていく上では、専門性・応用力を高め、より実践的に学べる環境を整備することが必要であり、その場合には、地域の企業等と連携しながら、実社会と結び付いた学習機会を創出し、生徒の選択肢を増やす取組を行うことが肝要であると考えております。	第3章	1 基本理念 生涯にわたって主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら自分の人生を舵取りすることができる力を育むことが必要であり、ふるさと宮城の理解を深めながら、異なる価値観や文化を尊重し、的確な情報活用と課題解決を通じて新たな価値を創造する資質・能力を持つ生徒を育成していきます。 (1) 高校教育の創造的再構築 ○これにより、生徒が学びに対する高い意欲を持ち、将来の社会で自立して活躍するための力を育む、生徒を主語にした高校教育を実現します。 2 基本方針 (5) 地域資源を活用するなどして専門性・応用力を高め、より実践的に学べる環境を整備します。 ○地域の企業や関係団体、大学、市町村等と連携しながら、外部人材や施設・設備を活用したフィールドワークや地域課題をテーマにした研究学習など、地域に根ざした特色ある資源や産業、文化などを教育活動に取り入れることで、専門性や応用力を高める実践的な教育環境を整え、知識の習得にとどまらない、実社会と結び付いた学習機会を創出します。			●
2	在り方説明会	「生徒を主語にした高校教育」とあるが、社会に出たときの厳しさや企業が求める能力とのギャップを埋めるような教育も検討してほしい。	御指摘の観点が重要であると認識しており、そのため、基本理念において、予測困難な社会情勢の中で、自分の人生を舵取りすることができる力を育むという内容を盛り込んでおります。	第3章	1 基本理念 生涯にわたって主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら自分の人生を舵取りすることができる力を育むことが必要であり、ふるさと宮城の理解を深めながら、異なる価値観や文化を尊重し、的確な情報活用と課題解決を通じて新たな価値を創造する資質・能力を持つ生徒を育成していきます。			●
3	在り方説明会	大崎と栗原を1つの圏域とすることにより、栗原から大崎への生徒流出が更に進むのではないか。	少子化が進行する中でも、生徒の多様な学びに対するニーズに対応できるよう学習環境整備を行っていく必要があると考えております。	第3章	1 基本理念 (1) 高校教育の創造的再構築 ○急速な少子化を踏まえ、各圏域に必要となる学びの在り方を一から考え、生徒が切磋琢磨し合い、全ての生徒の可能性を最大限に引き出すことができる学習環境を整備し、現在の高校全体を作り変えて、新たな魅力ある高校教育を創造していきます。			●
4	在り方説明会	これ以上、保護者や地域の負担が増えることは避けいただきたい。生徒に任せるとだけでは結果的に地域が衰退してしまう。この答申が地域の将来に及ぼす影響を深く考慮した上で、地域の計画を考えていただきたい。	通学困難地域校の配置又はアクセスの配慮により、生徒及び保護者の負担が軽減できるようにしていく必要があると考えております。 一方で、少子化が進行する中でも、生徒の多様な学びに対するニーズに対応できるよう環境整備を行っていく必要もあり、通学時間・距離と多様なニーズへの対応のバランスを取っていくことが重要であると考えております。	第3章	1 基本理念 (1) 高校教育の創造的再構築 ○急速な少子化を踏まえ、各圏域に必要となる学びの在り方を一から考え、生徒が切磋琢磨し合い、全ての生徒の可能性を最大限に引き出すことができる学習環境を整備し、現在の高校全体を作り変えて、新たな魅力ある高校教育を創造していきます。 ○高校教育を取り巻く社会経済環境の変化を的確に踏まえながら、従来の生徒数の減少に合わせた学級減や再編等ではなく、教育内容や学びの方法、地域との連携の在り方を含めた抜本的な見直しを行います。			●
5	在り方説明会	学校規模の考え方について、現在の学校が統合arseされ、将来的に、今ある高校への進学希望が可能かどうかが心配される。単純に人数が少くなるから統合の対象とするわけではないと思うがその辺の考え方はどうか。	具体的な高校の配置は実施計画で定めていくことになりますが、地域に必要な学び、生徒の多様な教育的ニーズ、通学時間・距離等の要素を総合的に検討していくことが必要であると考えております。	第3章	1 基本理念 (1) 高校教育の創造的再構築 ○急速な少子化を踏まえ、各圏域に必要となる学びの在り方を一から考え、生徒が切磋琢磨し合い、全ての生徒の可能性を最大限に引き出すことができる学習環境を整備し、現在の高校全体を作り変えて、新たな魅力ある高校教育を創造していきます。 ○高校教育を取り巻く社会経済環境の変化を的確に踏まえながら、従来の生徒数の減少に合わせた学級減や再編等ではなく、教育内容や学びの方法、地域との連携の在り方を含めた抜本的な見直しを行います。			●
6	在り方説明会	中部地区への生徒流出により、地域産業の人材不足が深刻化しているため、課題解決のためには地域の学校の維持が重要ではないか。	地域産業の状況を高校の学びに反映していくことは重要であり、特に中部地区以外では普通科以外の学科の希望も多いことから、地元にいながらにして、生徒の進路希望に応えられる教育環境の整備を行っていく必要があるものと考えております。	第4章	2 時代のニーズに対応した高校の魅力化 (2) 専門学科系の学び ○農業、工業、商業などの専門分野ごとの特色や地域資源を最大限に活かし、学校と企業の連携を強化しながら、地域の産業や課題解決に直結する学びの機会を創出するとともに、地域や学びの特性に応じた魅力ある教育環境を整備します。			●
7	在り方説明会	教育が持っている社会に与えるポテンシャルは大きいと思う。現状の課題に手当てをすることは大切だが、学校がなくなると、地域を衰退させる大きな負の要因として働く。	現状でも、高校は地域の方々に支えられながら学校運営を行っており、今後も一層、学校が地域や社会との連携・協働を深め、現実の社会や地域課題、文化・歴史等を学びに取り入れていくことが求められいくものと考えます。こうしたことを通じて生徒が地域への理解を深め、卒業後の進路として地元での就職も選択肢の一つになり得るものと考えますので、少子化が進行する中でも、地元にいながらにして、生徒の多様な学びに対するニーズに対応できるよう環境整備を検討していく必要があると考えております。	第3章	1 基本理念 (1) 高校教育の創造的再構築 ○急速な少子化を踏まえ、各圏域に必要となる学びの在り方を一から考え、生徒が切磋琢磨し合い、全ての生徒の可能性を最大限に引き出すことができる学習環境を整備し、現在の高校全体を作り変えて、新たな魅力ある高校教育を創造していきます。 ○高校教育を取り巻く社会経済環境の変化を的確に踏まえながら、従来の生徒数の減少に合わせた学級減や再編等ではなく、教育内容や学びの方法、地域との連携の在り方を含めた抜本的な見直しを行います。			●
8	中学生意見聴取会	(質問：身の回りで少子化の進行を実感することはあるか。) 私の学年の生徒数は50人程度（2クラス）だが、小学校1年生、2年生が1クラスなので、子どもの数が少なくなっていると感じる。	本構想では、生徒数の減少や学校の小規模化の中でも、生徒同士が切磋琢磨し、刺激し合う環境の整備を重視しており、それにより、それぞれの可能性をさらに最大限に伸ばしていくことにつながるものと考えます。	第3章	1 基本理念 (1) 高校教育の創造的再構築 ○急速な少子化を踏まえ、各圏域に必要となる学びの在り方を一から考え、生徒が切磋琢磨し合い、全ての生徒の可能性を最大限に引き出すことができる学習環境を整備し、現在の高校全体を作り変えて、新たな魅力ある高校教育を創造していきます。			●
9	中学生意見聴取会	(質問：身の回りで少子化の進行を実感することはあるか。) 地域の小学校が最近合併した。人数は減っていると感じる。	本構想では、生徒数の減少や学校の小規模化の中でも、生徒同士が切磋琢磨し、刺激し合う環境が重要で、それにより、それぞれの可能性をさらに最大限に伸ばしていくことにつながるものと考えます。	第3章	1 基本理念 (1) 高校教育の創造的再構築 ○急速な少子化を踏まえ、各圏域に必要となる学びの在り方を一から考え、生徒が切磋琢磨し合い、全ての生徒の可能性を最大限に引き出すことができる学習環境を整備し、現在の高校全体を作り変えて、新たな魅力ある高校教育を創造していきます。			●
10	中学生意見聴取会	(質問：中学生卒業者数の推移をみてどう思うか。) 減り過ぎていて、悲しいと感じる。	本構想では、生徒数の減少や学校の小規模化の中でも、生徒同士が切磋琢磨し、刺激し合う環境が重要で、それにより、それぞれの可能性をさらに伸ばしていくことにつながるものと考えます。	第3章	1 基本理念 (1) 高校教育の創造的再構築 ○急速な少子化を踏まえ、各圏域に必要となる学びの在り方を一から考え、生徒が切磋琢磨し合い、全ての生徒の可能性を最大限に引き出すことができる学習環境を整備し、現在の高校全体を作り変えて、新たな魅力ある高校教育を創造していきます。			●

■ (仮称) 第4期県立高校将来構想答申中間案 意見聴取における対応方針

No.	意見聴取の種別	主な御意見の内容	対応方針	章	中間案	最終案 実施計画 その他		
						最終案	実施計画	その他
<b>○ 基本方針</b>								
11	在り方説明会	気仙沼地区でも通信制高校へのニーズが高まっていると感じる。また、部活動や学力を求めて、親元を離れ仙台の高校へ進学する生徒が増加しており、家計の負担も重くなっている。このような実態や私立・県外への流出を分析した上で、計画に反映されているのか。	通信制のニーズや、私立高校・県外高校への入学者等のデータも考慮した上で、本中間案を検討しておりますが、今後、様々な制度変更により、こういった動向も変化し得るので、状況把握に努め、進捗管理に反映していく必要があるものと考えております。	第3章 第4章	3 第3章 2 基本方針 4 第4章 2 時代のニーズに対応した高校の魅力化	(1) 県内全ての地域において生徒の興味・関心や多様な進路希望に対応できる教育機会を確保します。 ○オンライン教育の活用や学校間・地域との連携などにより、生徒の可能性を広げ、県内全ての地域において、希望進路の実現を可能とする教育機会を確保します。		●
12	中学生意見聴取会	(質問：どのような高校に入学し、どのようなことを学びたいか。) 将来の夢について考えるきっかけやイメージができるような教育の機会が欲しい。例えば、大学生や企業から話を聞くなど、早い段階から文理選択を含め将来に向けて目標を持つきっかけとなるような時間があればと思っている。	今まで以上に、各校が担う役割や目指すべき学校像を明確にし、社会的ニーズや地域の特性などを踏まえた学びを提供することが必要であり、卒業後にギャップが生じないよう、企業や大学との連携により、実社会と結びついた学びの提供が一層重要なものと考えております。	第3章	2 基本方針 (2)スクール・ミッション※の再定義を行い、各校の特色を強く打ち出すごとで、生徒の多様な学習ニーズに応じた、質の高い学びの機会を提供します。 ○各校が担う役割や目指すべき学校像を明確にし、社会的ニーズや地域の特性などを踏まえた学びを提供することにより、育成を目指す資質・能力の明確化を図り、生徒一人一人が自らの興味・関心や進路希望に応じた学びを深められる環境を整えます。		●	
13	在り方説明会	「学校・家庭・地域の協働の必要性」に関して、中高速連携及び、市町村連携に関して、具体的な方策を検討しているか。	これまでも、小中学校との連携、市町村の協力により授業展開をしているところですが、今後さらに、総合的な探究の科目の中で、中学校とテーマを合わせ連携することや、探究活動を深めていく中で市町村と連携して取り組む場面も増えてくるものと考えます。	第3章	2 基本方針 (5) 地域資源を活用するなどして専門性・応用力を高め、より実践的に学べる環境を整備します。 ○地域の企業や関係団体、大学、市町村等と連携しながら、外部人材や施設・設備を活用したフィールドワークや地域課題をテーマにして探究学習など、地域に根ざした特色ある資源や産業、文化などを教育活動に取り入れることで、専門性や応用力を高める実践的な教育環境を整え、知識の習得にとどまらない、実社会と結び付いた学習機会を創出します。		●	
14	中学生意見聴取会	(質問：どのような高校に入学し、どのようなことを学びたいか。) 数学、英語の勉強に力を入れたい。	現状でも、デジタル化、グローバル化の進展への対応が高校教育にも求められており、そういった資質・能力を育む教育を展開していくことが必要であると考えております。	第3章	2 基本方針 (2)スクール・ミッション※の再定義を行い、各校の特色を強く打ち出すごとで、生徒の多様な学習ニーズに応じた、質の高い学びの機会を提供します。 ○各校が担う役割や目指すべき学校像を明確にし、社会的ニーズや地域の特性などを踏まえた学びを提供することにより、育成を目指す資質・能力の明確化を図り、生徒一人一人が自らの興味・関心や進路希望に応じた学びを深められる環境を整えます。		●	
15	中学生意見聴取会	(質問：どのような高校に入学し、どのようなことを学びたいか。) 文系に興味がある。	各校が担う役割や目指すべき学校像を明確にし、社会的ニーズや地域の特性などを踏まえた学びを提供することにより、育成を目指す資質・能力の明確化を図り、生徒一人一人が自らの興味・関心や進路希望に応じた学びを深められる環境を整えます。	第3章	2 基本方針 (2)スクール・ミッション※の再定義を行い、各校の特色を強く打ち出すごとで、生徒の多様な学習ニーズに応じた、質の高い学びの機会を提供します。 ○各校が担う役割や目指すべき学校像を明確にし、社会的ニーズや地域の特性などを踏まえた学びを提供することにより、育成を目指す資質・能力の明確化を図り、生徒一人一人が自らの興味・関心や進路希望に応じた学びを深められる環境を整えます。		●	
16	中学生意見聴取会	(質問：どのような高校に入学し、どのようなことを学びたいか。) 入学後にたくさん勉強が必要となる学校よりも、今の学力レベルから伸びがしないで入学可能な、男女共学で青春を豊かにできる学校が良い。大学の選択肢が多い学校が良い。	座学での授業だけでなく、体験的な授業など、生徒の多様な興味・関心に対応できる教育環境の整備が必要ですが、生徒の潜在的な可能性も最大限引き出していくことが何より重要であると考えております。	第3章	2 基本方針 (2)スクール・ミッション※の再定義を行い、各校の特色を強く打ち出すごとで、生徒の多様な学習ニーズに応じた、質の高い学びの機会を提供します。 ○各校が担う役割や目指すべき学校像を明確にし、社会的ニーズや地域の特性などを踏まえた学びを提供することにより、育成を目指す資質・能力の明確化を図り、生徒一人一人が自らの興味・関心や進路希望に応じた学びを深められる環境を整えます。		●	
17	中学生意見聴取会	(質問：どのような高校に入学し、どのようなことを学びたいか。) 分かりやすい授業を受けたい。クイズの要素を取り入れた授業を受けたい。学生食堂がある高校に入りたい。また、部活動の選択肢が多い学校に入りたい。	オンラインも効果的に活用しながら、習熟度に応じた学びを展開していくことが必要であり、また、再構築後の学びに必要な教育環境の整備を深めていくことも重要であると考えております。	第4章	1 岐阜県立高校教育の質の向上の方向性 (4) 教育DXの推進 ○生徒一人一人の興味・関心や習熟度に応じ、ICTやAI等のデジタル技術を活用した学びと、他者との関わりを通じて思考を深める対象的・体験的なリアルの学びを組み合わせ、知識と社会とのつながりを意識しながら生徒が主体的に学びに取り組める環境を整えます。		●	
18	中学生意見聴取会	(質問：どのような高校に入学し、どのようなことを学びたいか。) 自分の興味関心があることについて探究したい。勉強だけでなく部活動にも力をいれたい。	生徒の興味・関心は多様になっているので、それに応じた教育環境の整備が必要であり、生徒同士が切磋琢磨し、刺激し合う環境が重要で、それにより、それぞれの可能性をさらに伸ばしていくことにつながるものと考えます。	第3章	2 基本方針 (2)スクール・ミッション※の再定義を行い、各校の特色を強く打ち出すごとで、生徒の多様な学習ニーズに応じた、質の高い学びの機会を提供します。 ○各校が担う役割や目指すべき学校像を明確にし、社会的ニーズや地域の特性などを踏まえた学びを提供することにより、育成を目指す資質・能力の明確化を図り、生徒一人一人が自らの興味・関心や進路希望に応じた学びを深められる環境を整えます。		●	
19	中学生意見聴取会	(質問：どのような高校に入学し、どのようなことを学びたいか。) 座学の授業よりも、自分で調べる授業が多い方が良い。	各校が担う役割や目指すべき学校像を明確にし、社会的ニーズや地域の特性などを踏まえた学びを提供することにより、育成を目指す資質・能力の明確化を図り、生徒一人一人が自らの興味・関心や進路希望に応じた学びを深められる環境を整えます。	第3章	2 基本方針 (2)スクール・ミッション※の再定義を行い、各校の特色を強く打ち出すごとで、生徒の多様な学習ニーズに応じた、質の高い学びの機会を提供します。 ○各校が担う役割や目指すべき学校像を明確にし、社会的ニーズや地域の特性などを踏まえた学びを提供することにより、育成を目指す資質・能力の明確化を図り、生徒一人一人が自らの興味・関心や進路希望に応じた学びを深められる環境を整えます。		●	
20	中学生意見聴取会	(質問：どのような高校に入学し、どのようなことを学びたいか。) プロスポーツ選手による保健体育の技術指導を受けてみたい。希望する職種の人と直接学ぶ講習会を受けてみたい。AI技術を取り入れた設備が整っていて、授業もAIを活用する学校に入りたい。	より実践的な学びが重要となるので、教員だけでなく外部人材も活用していくことが一層求められてくるものと考えます。 また、デジタル化の進展への対応も必要なので、高校教育にも今まで以上に取り入れていくことになります。	第3章	2 基本方針 (2)スクール・ミッション※の再定義を行い、各校の特色を強く打ち出すごとで、生徒の多様な学習ニーズに応じた、質の高い学びの機会を提供します。 ○各校が担う役割や目指すべき学校像を明確にし、社会的ニーズや地域の特性などを踏まえた学びを提供することにより、育成を目指す資質・能力の明確化を図り、生徒一人一人が自らの興味・関心や進路希望に応じた学びを深められる環境を整えます。		●	

■ (仮称) 第4期県立高校将来構想答申中間案 意見聴取における対応方針

No.	意見聴取の種別	主な御意見の内容	対応方針	章	中間案	最終案	実施計画	その他
21	中学生意見聴取会	(質問: どのような高校に入學し、どのようなことを学びたいか。) 何か実際にモノを作るような授業を受けたい。その高校でしか学べないような内容の授業を受けたい。	今まで以上に各校が担う役割や目指すべき学校像を明確にし、社会的ニーズや地域の特性などを踏まえた学びを提供することにより、育成を目指す資質・能力の明確化をしていくことが必要であると考えております。	第3章	2 基本方針 (2) スクール・ミッション※の再定義を行い、各校の特色を強く打ち出すごとで、生徒の多様な学習ニーズに応じた、質の高い学びの機会を提供します。 ○ 各校が担う役割や目指すべき学校像を明確にし、社会的ニーズや地域の特性などを踏まえた学びを提供することにより、育成を目指す資質・能力の明確化を図り、生徒一人一人が自らの興味・関心や進路希望に応じた学びを深める環境を整えます。			●
22	中学生意見聴取会	(質問: どのような高校に入學し、どのようなことを学びたいか。) 軽音楽や、クリエイター系の授業（例：動画編集、イラスト。）を受けてみたい。	学習指導要領に則りながらも、将来の進路につながる学びを展開していくことがより一層求められていくものと考えます。	第3章	2 基本方針 (2) スクール・ミッション※の再定義を行い、各校の特色を強く打ち出すごとで、生徒の多様な学習ニーズに応じた、質の高い学びの機会を提供します。 ○ 各校が担う役割や目指すべき学校像を明確にし、社会的ニーズや地域の特性などを踏まえた学びを提供することにより、育成を目指す資質・能力の明確化を図り、生徒一人一人が自らの興味・関心や進路希望に応じた学びを深める環境を整えます。			●
○ 学校配置の考え方 – 地理的条件等に応じた教育環境の整備								
23	在り方説明会	園域を7園域から5園域に減らすことで、スクールバス依存や保護者送迎が必要となることを懸念している。	今後、実施計画において、具体的な配置案と通学手段等を併せて検討してまいります。	第3章	3 学校配置の考え方 (5) 地理的条件等に応じた教育環境の整備 ○ 早朝に公共交通機関に乗車しなければ始業に間に合わない地域や、通学に一定の時間を要する地域等（以下「通学困難地域」という。）では、学校までの距離や交通手段等の制約を受けることなく、生徒が安心して学ぶことができるよう通学困難地域校としての継続配置、又はスクールバス等の通学・移動手段の確保を検討します。		●	
24	中学生意見聴取会	(質問: 高校までの通学時間はどのくらいまで通えるか。 (通学手段問わない)) 現在は、中学校に30分から40分かけて歩いて通学しているので、高校も1時間くらいであれば通える。	高校生が通学できる距離には限界があることから、通学に一定の時間を要する地域等に居住する生徒が、安心して学ぶことができるよう通学困難地域校としての継続配置、又はスクールバス等の通学・移動手段の確保を検討してまいります。	第3章	3 学校配置の考え方 (5) 地理的条件等に応じた教育環境の整備 ○ 早朝に公共交通機関に乗車しなければ始業に間に合わない地域や、通学に一定の時間を要する地域等（以下「通学困難地域」という。）では、学校までの距離や交通手段等の制約を受けることなく、生徒が安心して学ぶことができるよう通学困難地域校としての継続配置、又はスクールバス等の通学・移動手段の確保を検討します。			●
25	在り方説明会	学校統廃合が地域の活力低下を招くこと、小規模校を望んだ生徒が統合先で居場所を失うことが懸念される。	生徒の社会性を養うという観点から、高校は一定規模とすることが望ましいと考えてはいますが、通学条件等の問題も踏まえ、学校規模について一律の基準は定めないとしました。 具体的な配置等については、今後の実施計画で検討してまいります。	第3章	3 学校配置の考え方 (5) 地理的条件等に応じた教育環境の整備 ○ 早朝に公共交通機関に乗車しなければ始業に間に合わない地域や、通学に一定の時間を要する地域等（以下「通学困難地域」という。）では、学校までの距離や交通手段等の制約を受けることなく、生徒が安心して学ぶことができるよう通学困難地域校としての継続配置、又はスクールバス等の通学・移動手段の確保を検討します。 4 学校規模の考え方 ○ 本構想においては、1学年当たりの規模の目安は定めないものの、今後一層進む人口減少を見据えながら、園域ごとに必要な学級数を設定し、学びの質の確保の観点から一定の学校規模を確保するものとします。		●	
26	在り方説明会	通学困難地域校について、「2年連続で定員の2分の1以下となった場合に募集停止を検討する」との記載があるが、具体的にどのように進めるのか。	同一市町村内に当該校以外の学校が存在しない場合に限り、通学距離等の通学条件や、所在市町村との協議の状況を踏まえ、募集停止の適否について検討することを想定しています。	第3章	3 学校配置の考え方 (5) 地理的条件等に応じた教育環境の整備 ○ なお、通学困難地域校については、入学者数が2年連続して募集定員の1/2以下となった場合には、翌年度からの募集停止を検討します。ただし、次の条件のいずれかに当てはまる場合、存続について検討します。検討に当たっては、所在市町村からの支援を含めた地域との協働が可能であるか等、所在市町村の主体的な関わり方を考慮します。 ① 通学困難地域校について、同一市町村内に当該校以外の学校がない場合に限り、所在市町村の主体的な関わり方（所在市町村からの支援を含めた地域との協働が可能であるか等）を考慮し、募集停止の適否について検討します。 ② ①により存続となった場合にも入学者数の増加が見込まれない場合には改めて募集停止を検討します。			●
27	中学生意見聴取会	(質問: 高校までの通学時間はどのくらいまで通えるか。 (通学手段問わない)) 1時間くらいまでなら通えると思う。	高校生が通学できる距離には限界があることから、通学に一定の時間を要する地域等に居住する生徒が、安心して学ぶことができるよう通学困難地域校としての継続配置、又はスクールバス等の通学・移動手段の確保を検討してまいります。	第3章	3 学校配置の考え方 (5) 地理的条件等に応じた教育環境の整備 ○ 早朝に公共交通機関に乗車しなければ始業に間に合わない地域や、通学に一定の時間を要する地域等（以下「通学困難地域」という。）では、学校までの距離や交通手段等の制約を受けることなく、生徒が安心して学ぶことができるよう通学困難地域校としての継続配置、又はスクールバス等の通学・移動手段の確保を検討します。			●
○ 県立高校教育の質の向上の方向性 – 多様なニーズに対応した教育の推進								
28	パブリックコメント	「グローバル化」を掲げて、国際社会に通用する子供を… という事だが、その割に、日本人の子供を差していない様に見える。 多くの外国人労働者は出稼ぎの様な形で帰る事を前提にされていて、子供と一緒に日本での暮らしをスタートできる環境が足りない。 これでは本当の国際化とは言えないと思う。 既に国際学校は幾つかある様だが、アジア圏には対応が不足している。 大崎日本語学校の様な取り組みを一步進め、海外から来た生徒がスムーズに学習を受けられる環境や制度を、(小中学校含めて) 整える必要があるのではないか。大人の都合でなく、生徒の「教育を受ける権利」を第一に、将来設計して頂きたい。	○参考意見とさせていただきます。 御指摘のあった海外から来た生徒への学習支援を含め、生徒の様々な背景を踏まえ、それそれに応じた学習方法の提供を推進します。 また、基本理念に記載のとおり、生徒を主語にした高校教育の実現を目指してまいります。	第4章	1 県立高校教育の質の向上の方向性 (3) 多様なニーズに応じた教育の推進 ○ 生徒一人一人の学習状況や興味・関心、進路希望などの教育的ニーズを的確に把握し、それに応じた最適な学習環境を整備するため、個々の能力や特性に対応した教育課程を編成します。これにより、実社会で必要な知識や技能の習得を図り、将来の社会的自立に必要な判断力・表現力・協働力などの資質・能力を育みます。 ○ 生徒が持つ個性や能力などの様々な背景を踏まえ、それぞれに応じた学習方法の提供など、互いを尊重し協働できる環境を整備し、共生社会の実現に向けた教育活動を推進します。			●

■ (仮称) 第4期県立高校将来構想答申中間案 意見聴取における対応方針

No.	意見聴取の種別	主な御意見の内容	対応方針	章	中間案	最終案 実施計画 その他		
						最終案	実施計画	その他
	○ 県立高校教育の質の向上の方向性－教育DXの推進							
29	パブリックコメント	<p>A I 活用を盛り込めるが、今起きているA I の問題を、全く考えていないのではないか…。</p> <p>A I が強い環境負荷を伴う技術で、温暖化を促進する事、A I の電力確保の為に、国や企業が原発を増設しようとしている事。</p> <p>高校の生徒が納得した上で使うのか? (思想・信条の自由を侵害する恐れ)また海外の事例では、A I を使った学習で、生徒自身の能力は反対に落ちるという結果も出ている。</p> <p>ネット上の嘘や差別的な考え方で拾ってしまうA I は、人格に悪影響を与える危険性も指摘される。</p> <p>考える力を奪ななければいけない学校教育に、A I を「先生」の様に使うのは、良い事の様には思えない。</p>	<p>○参考意見とさせていただきます。</p> <p>生成A Iなどに代表されるデジタル技術の進展があるところですが、必要な情報を、その真質も含めて見極め、適切に活用し、さらに新たな価値を創造する力を備えることが、今後、求められいくものと考えます。</p>	第4章	<p>1 県立高校教育の質の向上の方向性          (4) 教育DXの推進          ○生徒一人一人の興味・関心や習熟度に応じ、I C TやA I等のデジタル技術を活用した学びと、他者との関わりを通じて思考を深める対話的・体験的なリアルの学びを組み合わせ、知識と社会とのつながりを意識しながら生徒が主体的に学びに取り組める環境を整えます。          ○人口減少・少子化が進展する中で、生徒一人一人にとって魅力ある教育環境づくりを推進するため、オンラインの効果的な活用などデジタル化により、学校の枠を超えた協働的な学びや海外の高校生との交流など、時間や場所にとらわれない柔軟な学習機会を創出しながら、教育内容の充実と授業運営等の効率化を図ります。</p>			●
30	パブリックコメント	<p>宮城県の公立高校はI C T化が他県に比べてかなり遅れているので、もっととしどしやるべき。また特に年寄りの先生方にもI C Tが使えるような講習会を実施するなどして、普及させて欲しい。仙台東高校なんかは、なかなかI C T化を取り入れた授業が進んでいるが、逆にナンバースクールは頗良すぎるがゆえに、旧態依然の授業をしてくれる先生が多い印象です。</p>	<p>○参考意見とさせていただきます。</p> <p>現状でも、教育DXを推進しているところですが、今後、さらにI C TやA I等のデジタル技術を活用した学びと、リアルの学びを組み合わせ、教育内容の充実と授業運営等の効率化を図っていく必要があると考えます。</p> <p>また、デジタル技術の活用による教育手法の変化や多様化する生徒の教育的ニーズに応えるため、研修体制を充実させなど教職員が安心して教育現場で活用できるよう支援してまいります。</p>	第4章	<p>1 県立高校教育の質の向上の方向性          (4) 教育DXの推進          ○生徒一人一人の興味・関心や習熟度に応じ、I C TやA I等のデジタル技術を活用した学びと、他者との関わりを通じて思考を深める対話的・体験的なリアルの学びを組み合わせ、知識と社会とのつながりを意識しながら生徒が主体的に学びに取り組める環境を整えます。          ○人口減少・少子化が進展する中で、生徒一人一人にとって魅力ある教育環境づくりを推進するため、オンラインの効果的な活用などデジタル化により、学校の枠を超えた協働的な学びや海外の高校生との交流など、時間や場所にとらわれない柔軟な学習機会を創出しながら、教育内容の充実と授業運営等の効率化を図ります。</p>			●
31	中学生意見聴取会	<p>(質問：オンラインでの授業の経験の有無及びタブレットを使用した授業についてどう感じるか。)          書くより、タブレットでタピングする方が良い。その方が早い。</p>	<p>デジタル技術の進展により、情報を適切に活用し、新たな価値を創造する力など、デジタル技術に対応した資質・能力が求められていることから、I C Tや生成A I等のデジタル技術を活用した学びを提供してまいります。</p>	第4章	<p>1 県立高校教育の質の向上の方向性          (4) 教育DXの推進          ○生徒一人一人の興味・関心や習熟度に応じ、I C TやA I等のデジタル技術を活用した学びと、他者との関わりを通じて思考を深める対話的・体験的なリアルの学びを組み合わせ、知識と社会とのつながりを意識しながら生徒が主体的に学びに取り組める環境を整えます。</p>			●
32	中学生意見聴取会	<p>(質問：オンラインでの授業の経験の有無及びタブレットを使用した授業についてどう感じるか。)          オンラインでの授業の経験はないが、タブレットを使うことに抵抗はない。ただ、紙媒体を使うことのメリットもあるので、両方とも状況に合った使い方をしていく。</p>	<p>デジタル技術の進展により、情報を適切に活用し、新たな価値を創造する力など、デジタル技術に対応した資質・能力が求められていることから、I C Tや生成A I等のデジタル技術を活用した学びを提供してまいります。</p>	第4章	<p>1 県立高校教育の質の向上の方向性          (4) 教育DXの推進          ○生徒一人一人の興味・関心や習熟度に応じ、I C TやA I等のデジタル技術を活用した学びと、他者との関わりを通じて思考を深める対話的・体験的なリアルの学びを組み合わせ、知識と社会とのつながりを意識しながら生徒が主体的に学びに取り組める環境を整えます。</p>			●
33	中学生意見聴取会	<p>(質問：オンラインでの授業の経験の有無及びタブレットを使用した授業についてどう感じるか。)          抵抗感はない。</p>	<p>デジタル技術の進展により、情報を適切に活用し、新たな価値を創造する力など、デジタル技術に対応した資質・能力が求められていることから、I C Tや生成A I等のデジタル技術を活用した学びを提供してまいります。</p>	第4章	<p>1 県立高校教育の質の向上の方向性          (4) 教育DXの推進          ○生徒一人一人の興味・関心や習熟度に応じ、I C TやA I等のデジタル技術を活用した学びと、他者との関わりを通じて思考を深める対話的・体験的なリアルの学びを組み合わせ、知識と社会とのつながりを意識しながら生徒が主体的に学びに取り組める環境を整えます。</p>			●
34	中学生意見聴取会	<p>(質問：オンラインでの授業の経験の有無及びタブレットを使用した授業についてどう感じるか。)          学校では変わないような、仕事を速く進めるためのパソコンの使用方法をYouTubeで見たことがある。企業に入ってもパソコンは使用するので、パソコンを活用して効率化を図りたい。</p>	<p>デジタル技術の進展により、情報を適切に活用し、新たな価値を創造する力など、デジタル技術に対応した資質・能力が求められていることから、I C Tや生成A I等のデジタル技術を活用した学びを提供してまいります。</p>	第4章	<p>1 県立高校教育の質の向上の方向性          (4) 教育DXの推進          ○生徒一人一人の興味・関心や習熟度に応じ、I C TやA I等のデジタル技術を活用した学びと、他者との関わりを通じて思考を深める対話的・体験的なリアルの学びを組み合わせ、知識と社会とのつながりを意識しながら生徒が主体的に学びに取り組める環境を整えます。</p>			●
35	中学生意見聴取会	<p>(質問：V Rやドローンなどを使用する授業はどうか。)          V Rを使用する授業も受けみたい。楽しそうなので、興味がある。</p>	<p>デジタル技術の進展により、情報を適切に活用し、新たな価値を創造する力など、デジタル技術に対応した資質・能力が求められていることから、I C Tや生成A I等のデジタル技術を活用した学びを提供してまいります。</p>	第4章	<p>1 県立高校教育の質の向上の方向性          (4) 教育DXの推進          ○生徒一人一人の興味・関心や習熟度に応じ、I C TやA I等のデジタル技術を活用した学びと、他者との関わりを通じて思考を深める対話的・体験的なリアルの学びを組み合わせ、知識と社会とのつながりを意識しながら生徒が主体的に学びに取り組める環境を整えます。</p>			●
36	中学生意見聴取会	<p>(質問：V Rやドローンなどを使用する授業はどうか。)          良いと思う。水中ドローンが気になる。</p>	<p>デジタル技術の進展により、情報を適切に活用し、新たな価値を創造する力など、デジタル技術に対応した資質・能力が求められていることから、I C Tや生成A I等のデジタル技術を活用した学びを提供してまいります。</p>	第4章	<p>1 県立高校教育の質の向上の方向性          (4) 教育DXの推進          ○生徒一人一人の興味・関心や習熟度に応じ、I C TやA I等のデジタル技術を活用した学びと、他者との関わりを通じて思考を深める対話的・体験的なリアルの学びを組み合わせ、知識と社会とのつながりを意識しながら生徒が主体的に学びに取り組める環境を整えます。</p>			●

■ (仮称) 第4期県立高校将来構想答申中間案 意見聴取における対応方針

No.	意見聴取の種別	主な御意見の内容	対応方針	章	中間案	最終案 実施計画 その他		
						最終案	実施計画	その他
○ 時代のニーズに対応した高校の魅力化－普通科系の学び								
37	パブリックコメント	高校教育費無償化が実施され、県立高校の定員割れ等、課題も多い事からの見直しだと思います。 他県、私立高校などからの差別化として、英語授業で国際感覚を身に付ける学科を何校かに設けては如何でしょうか？ 全校には無理でしょうかが、アメリカンスクールの様に、日常会話から授業まで、登校から下校まで英語で学ぶクラスが作ったら良いと思いました。単独では無理であれば、観光、ビジネス、防災、電子等の専攻科目に取り入れても良いと思います。 自身の英語力の無さから、英語授業が必要だと感じています。	○参考意見とさせていただきます。 時代のニーズに対応した県立高校の魅力化やグローバル化の進展に応じた国際的な視野や語学力の充実は必要と認識しております。 具体的な運用については、今後の実施計画において検討します。	第4章	2 時代のニーズに対応した高校の魅力化 (1) 普通科系の学び (2) 普通科の改革の推進により、地域の特色や社会的ニーズに応じた新たな学科の設置や、地域や大学等と連携した探究的な学びの推進など、総合的な探究の時間や学校設定科目などの活用により、従来の普通科の考え方方にとらわれない学びを創出し、地域や学校の特色に応じた魅力化を図ります。 ○ 地域や社会のニーズを的確にとらえ、特色ある分野をはじめ、企業や商工会、大学等と連携した学びを展開します。また、デジタル技術や英語等の語学力などの社会的ニーズにも対応したカリキュラムの導入などによる、実社会で活きる知識・技能を身に付ける実践的な学びの充実を図ります。		●	
38	在り方説明会	拠点校の考え方は理解するが、近くで通えることも非常に重要。校内拠点クラスのような発想があつても良いのではないか。	オンライン教育を活用したピアグループの形成などにより、地元にいながらにして多様な学習ニーズに対応した教育環境を整備してまいります。	第4章	2 時代のニーズに対応した高校の魅力化 ○ 本県の高校教育においては、第2章で確認したような現状と課題があることを踏まえ、オンライン教育の活用やピアグループ※等の協働学習体制※の形成など、生徒同士が切磋琢磨できる学習環境や、大学や企業との連携などによる高度な専門知識・技術を学べる環境の整備など、多様な学習ニーズに対応した教育環境を整備する必要があります。			●
39	在り方説明会	他県では、全国募集で成功している地域がある中、宮城県として、どのように全国募集や多様な人材の育成など、各校の特色をつけていくのか。	創造的再構築を通じ、スクール・ミッションの再定義を行うことにより、今まで以上に各校が担う役割や目指すべき学校像を明確にし、各校の魅力化を一層推進します。	第3章	2 基本方針 (2) スクール・ミッション※の再定義を行い、各校の特色を強く打ち出すごとで、生徒の多様な学習ニーズに応じた、質の高い学びの機会を提供します。 ○ 各校が担う役割や目指すべき学校像を明確にし、社会的ニーズや地域の特性などを踏まえた学びを提供することにより、育成を目指す資質・能力の明確化を図り、生徒一人一人が自らの興味・関心や進路希望に応じた学びを深められる環境を整えます。			●
40	在り方説明会	無償化で私立への進学者が増え、公立が環境的に難しい状況になることが懸念される。私立に負けない魅力ある学校づくりが必要である。進学実績向上のためのモデル校創設や土木学科の新設など、県教委で進めている魅力ある学校づくりについて、説明願いたい。	普通科改革の一環で地域の課題を題材とした探究活動をより深化させることや、公立高校同士をピアグループとして結ぶことは、公立高校ならではの取組であり、そのアドバンテージを十分に活用していきたいと考えております。	第4章	2 時代のニーズに対応した高校の魅力化 ○ 本県の高校教育においては、第2章で確認したような現状と課題があることを踏まえ、オンライン教育の活用やピアグループ※等の協働学習体制※の形成など、生徒同士が切磋琢磨できる学習環境や、大学や企業との連携などによる高度な専門知識・技術を学べる環境の整備など、多様な学習ニーズに対応した教育環境を整備する必要があります。 (1) 普通科系の学び (2) 普通科の改革の推進により、地域の特色や社会的ニーズに応じた新たな学科の設置や、地域や大学等と連携した探究的な学びの推進など、総合的な探究の時間や学校設定科目などの活用により、従来の普通科の考え方方にとらわれない学びを創出し、地域や学校の特色に応じた魅力化を図ります。			●
41	在り方説明会	宮城県の高校生の英検2級・準2級取得率が全国ワーストである状況下で、どのようにしてグローバル化の取り組みを進めていくのか。ソフト部分の整備も含め、県庁全体で検討し、県民全員が納得する大きな変化を構築していただきたい。	グローバル化が進展する中で、語学力はそれ自体を目的とするのではなく、どのように活用するかが重要であると考えておりますので、そのような学びにつなげられるような取組を進めてまいります。	第4章	2 時代のニーズに対応した高校の魅力化 (1) 普通科系の学び (2) 普通科の改革の推進により、地域の特色や社会的ニーズに応じた新たな学科の設置や、地域や大学等と連携した探究的な学びの推進など、総合的な探究の時間や学校設定科目などの活用により、従来の普通科の考え方方にとらわれない学びを創出し、地域や学校の特色に応じた魅力化を図ります。 ○ 地域や社会のニーズを的確にとらえ、特色ある分野をはじめ、企業や商工会、大学等と連携した学びを展開します。また、デジタル技術や英語等の語学力などの社会的ニーズにも対応したカリキュラムの導入などによる、実社会で活きる知識・技能を身に付ける実践的な学びの充実を図ります。			●
42	中学生意見聴取会	(質問：普通高校に対して、どのようなイメージがあり、どのようなことを望むか。) 普通高校の違いが分かりにくいため、それぞれの高校の魅力を中学生に分かりやすく示してほしい。	創造的再構築を通じ、スクール・ミッションの再定義を行うことにより、今まで以上に各校が担う役割や目指すべき学校像を明確にし、各校の魅力化を一層推進します。	第3章	2 基本方針 (2) スクール・ミッション※の再定義を行い、各校の特色を強く打ち出すごとで、生徒の多様な学習ニーズに応じた、質の高い学びの機会を提供します。 ○ 各校が担う役割や目指すべき学校像を明確にし、社会的ニーズや地域の特性などを踏まえた学びを提供することにより、育成を目指す資質・能力の明確化を図り、生徒一人一人が自らの興味・関心や進路希望に応じた学びを深められる環境を整えます。			●
43	中学生意見聴取会	(質問：普通高校に対して、どのようなイメージがあり、どのようなことを望むか。) 文化祭や行事を楽しめるような学校だと良い。大学に行きたいので、大学に入るための勉強ができる学校だと良い。	創造的再構築を通じ、スクール・ミッションの再定義を行うことにより、今まで以上に各校が担う役割や目指すべき学校像を明確にし、各校の魅力化を一層推進します。	第3章	2 基本方針 (2) スクール・ミッション※の再定義を行い、各校の特色を強く打ち出すごとで、生徒の多様な学習ニーズに応じた、質の高い学びの機会を提供します。 ○ 各校が担う役割や目指すべき学校像を明確にし、社会的ニーズや地域の特性などを踏まえた学びを提供することにより、育成を目指す資質・能力の明確化を図り、生徒一人一人が自らの興味・関心や進路希望に応じた学びを深められる環境を整えます。			●
44	中学生意見聴取会	(質問：普通高校に対して、どのようなイメージがあり、どのようなことを望むか。) 共学で、学力はどの高校も平均的だと思う。たくさん課題が出されて勉強が大変そうだ。	創造的再構築を通じ、スクール・ミッションの再定義を行うことにより、今まで以上に各校が担う役割や目指すべき学校像を明確にし、各校の魅力化を一層推進します。	第3章	2 基本方針 (2) スクール・ミッション※の再定義を行い、各校の特色を強く打ち出すごとで、生徒の多様な学習ニーズに応じた、質の高い学びの機会を提供します。 ○ 各校が担う役割や目指すべき学校像を明確にし、社会的ニーズや地域の特性などを踏まえた学びを提供することにより、育成を目指す資質・能力の明確化を図り、生徒一人一人が自らの興味・関心や進路希望に応じた学びを深められる環境を整えます。			●
45	中学生意見聴取会	(質問：普通高校に対して、どのようなイメージがあり、どのようなことを望むか。) 座学だけではなく、体験系の授業があると良い。実際に何かを作るような授業を望む。	座学での授業だけでなく、体験的な授業など、生徒の多様な興味・関心に対応できる教育環境の整備が必要ですが、生徒の潜在的な可能性も最大限引き出していくことが何より重要であると考えております。	第4章	2 時代のニーズに対応した高校の魅力化 (1) 普通科系の学び (2) 普通科の改革の推進により、地域の特色や社会的ニーズに応じた新たな学科の設置や、地域や大学等と連携した探究的な学びの推進など、総合的な探究の時間や学校設定科目などの活用により、従来の普通科の考え方方にとらわれない学びを創出し、地域や学校の特色に応じた魅力化を図ります。 ○ 大学との連携を一層強化し、大学での特別講義の受講や大学生との合同探究活動などを通じて、高度な知識や最先端の研究に触れる機会を設定し、学問への関心や探究心を高めます。			●

■ (仮称) 第4期県立高校将来構想答申中間案 意見聴取における対応方針

No.	意見聴取の種別	主な御意見の内容	対応方針	章	中間案	最終案 実施計画 その他		
						最終案	実施計画	その他
○ 時代のニーズに対応した高校の魅力化－専門学科系の学び								
46	中学生意見聴取会	(質問：最先端の学びと聞いて、どのようなことをイメージするか。) 東北大学のナノテラスのような設備をイメージする。そのような最先端の施設を高校生も使えるようになればいいと思う。農業については、コンピュータを使用した、スマート農業について聞いたことがある。	専門高校の基幹校では、大学や企業、研究施設との連携により、先端技術に関する学びを充実させ、オンライン等を効果的に活用し、その成果を学校間で共有し、県全体でのレベルアップにつなげていくことが重要であると考えております。	第4章	2 時代のニーズに対応した高校の魅力化 (2) 専門学科系の学び ① 本県の基幹産業である農業、工業や水産業に関わる専門高校の基幹校では、大学や企業、研究施設との連携により、先端技術に関する学びを充実させ、オンライン等を効果的に活用し、その成果を学校間で共有します。			●
47	中学生意見聴取会	(質問：専門高校について、どんな授業があると良いか。) 工業関係の会社員と話す機会があったり、入社後に、実際に行う作業を体験できたりする学校だと良いと思う。直接社会で活けるような学習ができると良いと思う。	基幹校においては、大学や企業、研究施設との連携により、その成果を学校間で共有します。併せて、生徒の多様な進路希望に応じた学びや理数系・専門技術教育を強化し、地域産業の発展を担う人材の育成を目指して、科学技術高校の設置を検討します。 基幹校以外では、複数分野にまたがる知識や技術を身に付け、実社会と結び付いた総合的な力を育む学びの機会を提供してまいります。	第4章	2 時代のニーズに対応した高校の魅力化 (2) 専門学科系の学び ① 本県の基幹産業である農業、工業や水産業に関わる専門高校の基幹校では、大学や企業、研究施設との連携により、先端技術に関する学びを充実させ、オンライン等を効果的に活用し、その成果を学校間で共有します。			●
48	中学生意見聴取会	(質問：スマート農業やドローンという言葉を見聞きしたことはあるか。) スマート農業はないが、ドローンは聞いたことがある。以前テレビで、ドローンを使って農産物を移送している光景を観たことがあり、双方にとって便利でいいと思った。	デジタル技術の進展により、情報を適切に活用し、新たな価値を創造する力など、デジタル技術に対応した資質・能力が求められていることから、I C Tや生成A I等のデジタル技術を活用した学びを提供してまいります。	第4章	2 時代のニーズに対応した高校の魅力化 (2) 専門学科系の学び ① 本県の基幹産業である農業、工業や水産業に関わる専門高校の基幹校では、大学や企業、研究施設との連携により、先端技術に関する学びを充実させ、オンライン等を効果的に活用し、その成果を学校間で共有します。			●
49	在り方説明会	科学技術高校とあるが、これは具体的にどういったイメージか。他県では農業高校とかのイメージかと思うが、どうか。	工業高校と農業高校に基幹校を設置し、現在の理数系の学びに、実社会で求められている要素を加えた学びを提供していくことを想定しています。 本構想では当該基幹校を「科学技術高校」と呼称しています。	第4章	2 時代のニーズに対応した高校の魅力化 (2) 専門学科系の学び ① 本県の基幹産業である農業、工業や水産業に関わる専門高校の基幹校では、大学や企業、研究施設との連携により、先端技術に関する学びを充実させ、オンライン等を効果的に活用し、その成果を学校間で共有します。 ○ 農業系及び工業系の学びに理数系の学びを取り入れることなどによる、理数系教育の強化や専門技術教育の実践などを重点的にを行い、データサイエンスや環境技術、バイオテクノロジーなど、先端科学技術や地域産業の発展に寄与できるスペシャリストの育成を目指す、科学技術高校の設置を検討します。			●
50	在り方説明会	科学技術高校について、先進的な取り組みをしている他県の具体的な情報があれば提供願いたい。宮城県では、自動車分野に絞り込んでいるわけではないということを良いか。	例えば、県外では、東京科学大学附属科学技術高校や秋田県の科学技術高校が既に設置している例として挙げられます。 宮城県では自動車分野に限定するのではなく、農業や工業の分野でそのような学校を設置する方向で検討を行っております。	第4章	2 時代のニーズに対応した高校の魅力化 (2) 専門学科系の学び ① 本県の基幹産業である農業、工業や水産業に関わる専門高校の基幹校では、大学や企業、研究施設との連携により、先端技術に関する学びを充実させ、オンライン等を効果的に活用し、その成果を学校間で共有します。 ○ 農業系及び工業系の学びに理数系の学びを取り入れることなどによる、理数系教育の強化や専門技術教育の実践などを重点的にを行い、データサイエンスや環境技術、バイオテクノロジーなど、先端科学技術や地域産業の発展に寄与できるスペシャリストの育成を目指す、科学技術高校の設置を検討します。			●
51	中学生意見聴取会	(質問：科学技術高校と聞いて、どんな学校だと思うか) 理科系の学校かと思う。実験が好きなので、理数系には興味がある。	農業系及び工業系の学びに理数系の学びを取り入れることなどによる、理数系教育の強化や専門技術教育の実践などを重点的にを行い、先端科学技術や地域産業の発展に寄与できるスペシャリストの育成を目指す、科学技術高校の設置を検討してまいります。	第4章	2 時代のニーズに対応した高校の魅力化 (2) 専門学科系の学び ① 本県の基幹産業である農業、工業や水産業に関わる専門高校の基幹校では、大学や企業、研究施設との連携により、先端技術に関する学びを充実させ、オンライン等を効果的に活用し、その成果を学校間で共有します。 ○ 農業系及び工業系の学びに理数系の学びを取り入れることなどによる、理数系教育の強化や専門技術教育の実践などを重点的にを行い、データサイエンスや環境技術、バイオテクノロジーなど、先端科学技術や地域産業の発展に寄与できるスペシャリストの育成を目指す、科学技術高校の設置を検討します。			●
52	中学生意見聴取会	(質問：専門高校についてどんなイメージをもっているか。) 工業は機械を使用し、農業は野菜の栽培をするイメージがある。	基幹校においては、大学や企業、研究施設との連携により、その成果を学校間で共有します。併せて、生徒の多様な進路希望に応じた学びや理数系・専門技術教育を強化し、地域産業の発展を担う人材の育成を目指して、科学技術高校の設置を検討します。 基幹校以外では、複数分野にまたがる知識や技術を身に付け、実社会と結び付いた総合的な力を育む学びの機会を提供していくことが必要であると考えております。	第4章	2 時代のニーズに対応した高校の魅力化 (2) 専門学科系の学び ① 本県の基幹産業である農業、工業や水産業に関わる専門高校の基幹校では、大学や企業、研究施設との連携により、先端技術に関する学びを充実させ、オンライン等を効果的に活用し、その成果を学校間で共有します。 ② 基幹校以外では、異なる分野の学びを組み合わせることや、連携することで、複数分野にまたがる知識や技術を身に付け、より実社会と結び付いた総合的な力を育む学びの機会を提供します。			●

■ (仮称) 第4期県立高校将来構想答申中間案 意見聴取における対応方針

No.	意見聴取の種別	主な御意見の内容	対応方針	章	中間案	最終案 実施計画 その他		
						最終案	実施計画	その他
53	中学生意見聴取会	(質問：専門高校についてどんなイメージをもっているか。) 特殊な技術に特化しているイメージがある。	専門高校では、実際の企業活動を念頭においていた学びの展開が必要であり、今回、中間案では、基幹校においては、大学や企業、研究施設との連携により、その成果を学校間で共有します。併せて、生徒の多様な進路希望に応じた学びや理数系・専門技術教育を強化し、地域産業の発展を担う人材の育成を目指して、科学技術高校の設置を検討します。 基幹校以外では、複数分野にまたがる知識や技術を身に付け、実社会と結び付いた総合的な力を育む学びの機会を提供していくことが必要であると考えております。	第4章	2 時代のニーズに対応した高校の魅力化 (2) 専門学科系の学び ① 本県の基幹産業である農業、工業や水産業に関わる専門高校の基幹校では、大学や企業、研究施設との連携により、先端技術に関する学びを充実させ、オンライン等を効果的に活用し、その成果を学校間で共有します。 ② 基幹校以外では、異なる分野の学びを組み合わせることや、連携することで、複数分野にまたがる知識や技術を身に付け、より実社会と結び付いた総合的な力を育む学びの機会を提供します。			●
54	中学生意見聴取会	(質問：専門高校についてどんなイメージをもっているか。) 卒業後は就職するというイメージ。	専門高校においても、近年、大学進学も増加してきているところですが、今回の中間案では、基幹校においては、大学や企業、研究施設との連携により、その成果を学校間で共有します。併せて、生徒の多様な進路希望に応じた学びや理数系・専門技術教育を強化し、地域産業の発展を担う人材の育成を目指して、科学技術高校の設置を検討します。 基幹校以外では、複数分野にまたがる知識や技術を身に付け、実社会と結び付いた総合的な力を育む学びの機会を提供していくことが必要であると考えております。	第4章	2 時代のニーズに対応した高校の魅力化 (2) 専門学科系の学び ① 本県の基幹産業である農業、工業や水産業に関わる専門高校の基幹校では、大学や企業、研究施設との連携により、先端技術に関する学びを充実させ、オンライン等を効果的に活用し、その成果を学校間で共有します。 ② 基幹校以外では、異なる分野の学びを組み合わせることや、連携することで、複数分野にまたがる知識や技術を身に付け、より実社会と結び付いた総合的な力を育む学びの機会を提供します。			●
55	中学生意見聴取会	(質問：専門高校についてどんなイメージをもっているか。) 道を決めたうえで入学し、入学後はその道を極めるイメージがある。	基幹校においては、大学や企業、研究施設との連携により、その成果を学校間で共有します。併せて、生徒の多様な進路希望に応じた学びや理数系・専門技術教育を強化し、地域産業の発展を担う人材の育成を目指して、科学技術高校の設置を検討します。 基幹校以外では、複数分野にまたがる知識や技術を身に付け、実社会と結び付いた総合的な力を育む学びの機会を提供していくことが必要であると考えております。	第4章	2 時代のニーズに対応した高校の魅力化 (2) 専門学科系の学び ① 本県の基幹産業である農業、工業や水産業に関わる専門高校の基幹校では、大学や企業、研究施設との連携により、先端技術に関する学びを充実させ、オンライン等を効果的に活用し、その成果を学校間で共有します。 ② 基幹校以外では、異なる分野の学びを組み合わせることや、連携することで、複数分野にまたがる知識や技術を身に付け、より実社会と結び付いた総合的な力を育む学びの機会を提供します。			●
56	中学生意見聴取会	(質問：専門高校についてどんなイメージをもっているか。) 将来就きたい職業が決まっている人が進学先として選択するイメージがある。	基幹校においては、大学や企業、研究施設との連携により、その成果を学校間で共有します。併せて、生徒の多様な進路希望に応じた学びや理数系・専門技術教育を強化し、地域産業の発展を担う人材の育成を目指して、科学技術高校の設置を検討します。 基幹校以外では、複数分野にまたがる知識や技術を身に付け、実社会と結び付いた総合的な力を育む学びの機会を提供していくことが必要であると考えております。	第4章	2 時代のニーズに対応した高校の魅力化 (2) 専門学科系の学び ① 本県の基幹産業である農業、工業や水産業に関わる専門高校の基幹校では、大学や企業、研究施設との連携により、先端技術に関する学びを充実させ、オンライン等を効果的に活用し、その成果を学校間で共有します。 ② 基幹校以外では、異なる分野の学びを組み合わせることや、連携することで、複数分野にまたがる知識や技術を身に付け、より実社会と結び付いた総合的な力を育む学びの機会を提供します。			●
57	中学生意見聴取会	(質問：専門高校について、どんな授業があると良いか。) 機械を使う授業は楽しそうだ。	専門高校は、専門分野に対応した教育環境が魅力の一つであり、今回の中間案において、基幹校においては、大学や企業、研究施設との連携により、その成果を学校間で共有します。併せて、生徒の多様な進路希望に応じた学びや理数系・専門技術教育を強化し、地域産業の発展を担う人材の育成を目指して、科学技術高校の設置を検討します。 基幹校以外では、複数分野にまたがる知識や技術を身に付け、実社会と結び付いた総合的な力を育む学びの機会を提供していくことが必要であると考えております。	第4章	2 時代のニーズに対応した高校の魅力化 (2) 専門学科系の学び ① 本県の基幹産業である農業、工業や水産業に関わる専門高校の基幹校では、大学や企業、研究施設との連携により、先端技術に関する学びを充実させ、オンライン等を効果的に活用し、その成果を学校間で共有します。 ② 基幹校以外では、異なる分野の学びを組み合わせることや、連携することで、複数分野にまたがる知識や技術を身に付け、より実社会と結び付いた総合的な力を育む学びの機会を提供します。			●
58	中学生意見聴取会	(質問：県立高校が市町村と連携しながらやる授業はどう思うか。) 将来、水産業や、農業に興味がある人は、それを生業にしている人と関わりながら学べて良いと思う。	基幹校においては、大学や企業、研究施設との連携により、その成果を学校間で共有します。併せて、生徒の多様な進路希望に応じた学びや理数系・専門技術教育を強化し、地域産業の発展を担う人材の育成を目指して、科学技術高校の設置を検討します。 基幹校以外では、複数分野にまたがる知識や技術を身に付け、実社会と結び付いた総合的な力を育む学びの機会を提供してまいります。	第4章	2 時代のニーズに対応した高校の魅力化 (2) 専門学科系の学び ① 本県の基幹産業である農業、工業や水産業に関わる専門高校の基幹校では、大学や企業、研究施設との連携により、先端技術に関する学びを充実させ、オンライン等を効果的に活用し、その成果を学校間で共有します。 ② 基幹校以外では、異なる分野の学びを組み合わせることや、連携することで、複数分野にまたがる知識や技術を身に付け、より実社会と結び付いた総合的な力を育む学びの機会を提供します。			●
59	中学生意見聴取会	(質問：農業系の高校に興味を持っている友人はいるか。) 畜産をやってみたいと言っている友達がいる。	基幹校においては、大学や企業、研究施設との連携により、その成果を学校間で共有します。併せて、生徒の多様な進路希望に応じた学びや理数系・専門技術教育を強化し、地域産業の発展を担う人材の育成を目指して、科学技術高校の設置を検討します。 基幹校以外では、複数分野にまたがる知識や技術を身に付け、実社会と結び付いた総合的な力を育む学びの機会を提供してまいります。	第4章	2 時代のニーズに対応した高校の魅力化 (2) 専門学科系の学び ① 本県の基幹産業である農業、工業や水産業に関わる専門高校の基幹校では、大学や企業、研究施設との連携により、先端技術に関する学びを充実させ、オンライン等を効果的に活用し、その成果を学校間で共有します。 ② 基幹校以外では、異なる分野の学びを組み合わせることや、連携することで、複数分野にまたがる知識や技術を身に付け、より実社会と結び付いた総合的な力を育む学びの機会を提供します。			●
60	中学生意見聴取会	(質問：スマート農業やドローンという言葉を見聞きしたことはあるか。) 見たことはない。	デジタル技術の進展により、情報を適切に活用し、新たな価値を創造する力など、デジタル技術に対応した資質・能力が求められていることから、ICTや生成AI等のデジタル技術を活用した学びを提供してまいります。	第4章	(2) 専門学科系の学び <各専門分野の学び> ア 農業系の学び ○ A I や I o T 、データ分析などのスマート農業に必要とされる情報・デジタル技術やバイオテクノロジーなどの学びを教育課程に取り入れることで、実践的かつ高度な知識・技術を習得できる学びを充実させます。			●
61	中学生意見聴取会	(質問：スマート農業やドローンという言葉を見聞きしたことはあるか。) 地理の授業で、アメリカの農業は広大な土地で機械を使ってやっているのを見たことがあり、すごいなど感じた。中国のロボットもすごいなど感じる。	デジタル技術の進展により、情報を適切に活用し、新たな価値を創造する力など、デジタル技術に対応した資質・能力が求められていることから、I C Tや生成A I等のデジタル技術を活用した学びを提供してまいります。	第4章	2 時代のニーズに対応した高校の魅力化 (2) 専門学科系の学び <各専門分野の学び> ア 農業系の学び ○ A I や I o T 、データ分析などのスマート農業に必要とされる情報・デジタル技術やバイオテクノロジーなどの学びを教育課程に取り入れることで、実践的かつ高度な知識・技術を習得できる学びを充実させます。			●

■ (仮称) 第4期県立高校将来構想答申中間案 意見聴取における対応方針

No.	意見聴取の種別	主な御意見の内容	対応方針	章	中間案	最終案 実施計画 その他		
						最終案	実施計画	その他
○ 多様な学びの在り方								
62	パブリックコメント	不登校児が全盛期になってしまってるので、新しい試みで i d e a l スクールを始めるのはいいけど、入試制度も点数や学年ごとにこだわらず、人柄や意欲、シングルマザーの子も多いのでスクールバスなんかも検討して通いやすくするとか、不登校が常態化することに鑑み、ZOOMなどのオンライン授業なんかも検討して、通わないので済むような施策も検討して欲しい。	○参考意見とさせていただきます。 i d e a l スクールにおいても、通信制高校との効率的な併修が可能となる仕組みとするほか、入学者選抜の方法も新たに「i d e a l 選抜」という、高校生活への意欲を重視し、多面的に生徒を見取ることができるような選抜方法も取り入れることを予定しているところです。	第4章	1 県立高校教育の質の向上の方向性 (4) 教育DXの推進 ○登校に不安を抱えている生徒や、病気等により長期療養のため登校できない生徒に対しては、生徒・保護者の意向も踏まえた上で、家庭や病室と教室をオンラインでつなぎリアルタイムで授業を受けることや、オンデマンド配信を活用して学習を進めることなど、デジタル技術を活用した学習支援に引き続き取り組みます。 3 多様な学びの在り方 (2) 定時制・通信制の在り方 ○通信制高校（課程）のニーズを踏まえながら、スクーリング拠点や通信制高校の増設を行うことで、場所や時間にとらわれず学べる学習機会の充実を図り、全ての生徒が安心して学びを継続できる環境を整備します。			●
63	在り方説明会	不登校経験のある生徒や学び直しを支えてきた夜間定時制の存続を温かい目で見守っていただきたい。今後オンライン教育が進展する中においても、生徒に寄り添いながら教員が直接指導する大切さを伝えておきたい。	定時制高校の現状を踏まえながら、生徒の多様な学習スタイルや生活状況に、より一層対応できる教育の在り方を検討してまいります。	第3章 第4章	第3章2 基本方針 (4) デジタル技術を活用した学びと、対面によるリアルな学びを効果的に組み合わせ、多様化・グローバル化する社会の中で、主体的に課題に取り組み、未来を切り拓く資質・能力を育む新たな学びの環境を整えます。 第4章3 多様な学びの在り方 (2) 定時制・通信制の在り方 ○定時制高校の現状を踏まえながら、i d e a l スクールで取り組んだ実績を活用し、生徒の多様な学習スタイルや生活状況により一層対応できる教育の在り方を検討します。			●
64	在り方説明会	定時制高校の在り方について、既存の定時制高校をアイデアルスクールとするのか、定時制高校はそのまま存続させるのか、どのように考えているのか。	昼間定時制と夜間定時制のニーズを見極めながら、検討していく必要があると考えていますが、特に昼間定時制については、i d e a l スクールとの役割分担を整理し、配置を検討してまいります。	第3章	3 学校配置の考え方 (4) 多様な学びに応じた学校配置 ○地域バランスを考慮し、生徒一人一人の学習を支援できる柔軟な学習時間やカリキュラム設定など、生徒の多様な生活・学習スタイルに対応したi d e a l スクールや、多部制定時制高校、通信制高校を配置します。			●
○ 多様な学びの在り方 –idealスクール								
65	パブリックコメント	IDEAL スクール という取り組みは期待したいが、同時に、なぜ既存の高校が拒絶されてしまうのか、という事も、考えてほしい。 IDEAL スクールの成果を、他の高校にも反映する仕組みが欲しい。	○参考意見とさせていただきます。 様々な背景を持つ生徒や、多様な生活・学習スタイルに応じてフレキシブルに学ぶことのできる新たなタイプの学校「i d e a l スクール」を令和9年度に開校します。ここでは、チユーター制の導入や外部人材との連携によりサポート体制を構築し、きめ細やかに生徒のフォローを行っていくこととしております。 また、次期開校構想では、i d e a l スクールの要素を他地域や他校で取り入れることを検討します。	第4章	3 多様な学びの在り方 (1) i d e a l スクール ○生徒の多様な生活・学習スタイルに応じてフレキシブルに学ぶことのできる学習者中心のi d e a l スクールの柔軟な授業時間やカリキュラムの設定、チユーター制の導入、個に応じた学習を支える体制の有効性などの実績を踏まえ、他地域への拡充を検討します。 ○i d e a l スクールの取組の要素を他校でも取り入れ、生徒がそれぞれの生活・学習スタイルに応じて安心して学べるよう、学習や学校生活適応への支援の充実を図ります。			●
66	在り方説明会	不登校の要因は、経済的理由のみならず精神的理由にもあるため、学校への通いやすさという部分について検討願いたい。	生徒の興味・関心の多様化に加え、様々な背景を有する生徒が増加していることから、柔軟な授業時間帯の設定、多様な教科・科目の展開などにより、生徒の意欲を引き出す体制を構築していくことが必要であると考えております。	第4章	3 多様な学びの在り方 (1) i d e a l スクール ○生徒の多様な生活・学習スタイルに応じてフレキシブルに学ぶことのできる学習者中心のi d e a l スクールの柔軟な授業時間やカリキュラムの設定、チユーター制の導入、個に応じた学習を支える体制の有効性などの実績を踏まえ、他地域への拡充を検討します。 ○i d e a l スクールの取組の要素を他校でも取り入れ、生徒がそれぞれの生活・学習スタイルに応じて安心して学べるよう、学習や学校生活適応への支援の充実を図ります。			●
67	中学生意見聴取会	(質問：アイデアルスクールに進学したいと思うか。) 自分の将来に向けて時間割を設定して学習できるし、今、自分がしたい、やらなければいけない勉強を時間割にして重点的な学習ができることが良いと思う。	生徒の多様な生活・学習スタイルに応じてフレキシブルに学ぶことのできる i d e a l スクールにより、個に応じた学習を支える体制を整備します。	第4章	3 多様な学びの在り方 (1) i d e a l スクール ○生徒の多様な生活・学習スタイルに応じてフレキシブルに学ぶことのできる学習者中心のi d e a l スクールの柔軟な授業時間やカリキュラムの設定、チユーター制の導入、個に応じた学習を支える体制の有効性などの実績を踏まえ、他地域への拡充を検討します。 ○i d e a l スクールの取組の要素を他校でも取り入れ、生徒がそれぞれの生活・学習スタイルに応じて安心して学べるよう、学習や学校生活適応への支援の充実を図ります。			●
68	在り方説明会	来年4月からフレキシブルな学びが出来るとあるが、フレキシブルというのは、機械的という意味なのか。	柔軟な授業時間帯の設定、多様な教科・科目の展開等により、生徒自らが高校生活を柔軟にデザインできる学びであることを「フレキシブル」という言葉で表しています。	第2章 第4章	第2章1 第3期県立高校将来構想に基づく取組の実施状況 (2) 学校づくりに向けた取組 また、様々な背景を持つ生徒や、多様な生活・学習スタイルに応じてフレキシブルに学ぶことのできる新たなタイプの学校「i d e a l (アイデアル) スクール」では、単位制やチユーター制により、生徒自らが高校生活をデザインし、夢や希望を実現することができる学校を目指して、令和9年度開校に向けた準備を進めています。 第4章3 多様な学びの在り方 (1) i d e a l スクール ○生徒の多様な生活・学習スタイルに応じてフレキシブルに学ぶことのできる学習者中心のi d e a l スクールの柔軟な授業時間やカリキュラムの設定、チユーター制の導入、個に応じた学習を支える体制の有効性などの実績を踏まえ、他地域への拡充を検討します。			●

■ (仮称) 第4期県立高校将来構想答申中間案 意見聴取における対応方針

No.	意見聴取の種別	主な御意見の内容	対応方針	章	中間案			
						最終案	実施計画	その他
69	在り方説明会	高校入後、環境に適応できず県立通信制高校に転・編入する場合、ケースによっては当初入学した高校の生徒と同時期の卒業が可能だが、他の全日制高校への在籍を望む場合は受験し直すか方法がない。学び直しを希望する生徒の進路変更について、どのように進めていくのか。	公平性の観点から、県外からの一家転住などの場合のみ転入が認められているところですが、例えばi d e a lスクールに再受験などで入学する場合には、学び直しの教科・科目も準備しているほか、通信制高校の併修も可能としており、そといった取組により学び直しを希望する生徒の進路希望に応えてまいりたいと考えております。	第3章 第4章	第3章2 基本方針 (6) 多様な状況の生徒、配慮や支援が必要な生徒が取り組みやすい環境づくりを進めます。 ○生徒一人一人の状況や特性に応じた学びを保障するため、履修方法や教育課程の工夫、オンライン教育などのデジタル技術の活用などにより、個に応じた多様な学びと学習者を中心とした生徒の主体的な学びを実現するとともに、特別な配慮や支援を必要とする生徒を積極的に支援するなど、全ての生徒が安心して学校生活を送れる体制を整えます。 第4章3 多様な学びの在り方 (1) i d e a lスクール ○生徒の多様な生活・学習スタイルに応じてフレキシブルに学ぶことのできる学習者中心のi d e a lスクールの柔軟な授業時間やカリキュラムの設定、チーフーター制の導入、個に応じた学習を支える体制の有効性などの実績を踏まえ、他地域への拡充を検討します。			●
70	在り方説明会	通信制は自己管理ができる子には適する一方、集中が続かない子には難しく、通常の集団の中で、複数教員による適切な支援を受けられる普通高校が理想を感じる。	i d e a lスクールにおいては、地域やN P O等の外部機関との協働により、きめ細やかな生徒の支援体制を構築することを計画しています。 i d e a lスクールは令和9年度に開校を予定しておりますが、今後、その要素を他校でも取り入れることができないか、検討してまいります。	第4章 第5章	第4章3 多様な学びの在り方 (1) i d e a lスクール ○i d e a lスクールの取組の要素を他校でも取り入れ、生徒がそれぞれの生活・学習スタイルに応じて安心して学べるよう、学習や学校生活適応への支援の充実を図ります。 第5章2 持続可能な学校教育の推進 (4) 生徒の相談・支援体制の構築 ○生徒一人一人の多様な背景や状況に応じた支援を充実させるため、学習面や生活面、進路面などにおけるきめ細かな相談・支援体制の構築や、関係機関・地域との協働を通じて、生徒が安心して学び、将来への希望を持って成長できる環境の整備を図ります。			●
71	在り方説明会	不登校や集団生活が苦手な生徒が増えており、私立や通信制を選択する例が多いと聞いています。が、外部機関との連携など手厚いサポート体制があるならば、不安を抱える生徒や保護者にとって公立高校も目指すところとなるのではないか。	i d e a lスクールにおいては、地域やN P O等の外部機関との協働により、きめ細やかな生徒の支援体制を構築することを計画しています。	第4章 第5章	第4章3 多様な学びの在り方 (1) i d e a lスクール ○生徒の多様な生活・学習スタイルに応じてフレキシブルに学ぶことのできる学習者中心のi d e a lスクールの柔軟な授業時間やカリキュラムの設定、チーフーター制の導入、個に応じた学習を支える体制の有効性などの実績を踏まえ、他地域への拡充を検討します。 第5章2 持続可能な学校教育の推進 (4) 生徒の相談・支援体制の構築 ○生徒一人一人の多様な背景や状況に応じた支援を充実させるため、学習面や生活面、進路面などにおけるきめ細かな相談・支援体制の構築や、関係機関・地域との協働を通じて、生徒が安心して学び、将来への希望を持って成長できる環境の整備を図ります。			●
72	中学生意見聴取会	(質問：アイデアルスクールにはどのような印象を持つか。) 興味がある。良いと思う。自分で授業を選択できるのは魅力的だ。異学年と一緒に授業を受けることで視野が広がりそうだ。	生徒の多様な生活・学習スタイルに応じてフレキシブルに学ぶことのできる i d e a lスクールでは、個に応じた学習を支える体制を整備してまいります。	第4章	3 多様な学びの在り方 (1) i d e a lスクール ○生徒の多様な生活・学習スタイルに応じてフレキシブルに学ぶことのできる学習者中心のi d e a lスクールの柔軟な授業時間やカリキュラムの設定、チーフーター制の導入、個に応じた学習を支える体制の有効性などの実績を踏まえ、他地域への拡充を検討します。			●
73	中学生意見聴取会	(質問：アイデアルスクールにはどのような印象を持つか。) 入りたいと思う。「生徒一人一人に合った」とあるので、負担やストレスなく通学できそうだ。	生徒の多様な生活・学習スタイルに応じてフレキシブルに学ぶことのできる i d e a lスクールでは、個に応じた学習を支える体制を整備してまいります。	第4章	3 多様な学びの在り方 (1) i d e a lスクール ○生徒の多様な生活・学習スタイルに応じてフレキシブルに学ぶことのできる学習者中心のi d e a lスクールの柔軟な授業時間やカリキュラムの設定、チーフーター制の導入、個に応じた学習を支える体制の有効性などの実績を踏まえ、他地域への拡充を検討します。			●
74	中学生意見聴取会	(質問：アイデアルスクールにはどのような印象を持つか。) 今回資料をもらったタイミングで初めて聞いた。どのような学びの形になるか、あまりイメージが湧かないため興味がある。	生徒の多様な生活・学習スタイルに応じてフレキシブルに学ぶことのできる i d e a lスクールでは、個に応じた学習を支える体制を整備してまいります。	第4章	3 多様な学びの在り方 (1) i d e a lスクール ○生徒の多様な生活・学習スタイルに応じてフレキシブルに学ぶことのできる学習者中心のi d e a lスクールの柔軟な授業時間やカリキュラムの設定、チーフーター制の導入、個に応じた学習を支える体制の有効性などの実績を踏まえ、他地域への拡充を検討します。			●
75	中学生意見聴取会	(質問：アイデアルスクールに進学したいと思うか。) 自分の好きなことに詳しくなるため、アイデアルスクールで授業を受けてみたい。自分の将来に関わること以外を学ぶのは無駄だと思うから。	全ての生徒が自らの興味・関心や能力に応じて学びを深めることができるよう、学びの内容や方法を柔軟に選択できる個別最適な学びを推進とともに、多様な背景や考え方を持つ他者と互いに学び合い、課題解決に取り組む協働的な学びの充実を図ります。こうしたことを通じ、将来の可能性を広げていくことが必要であると考えています。 また、生徒の多様な生活・学習スタイルに応じてフレキシブルに学ぶことのできる i d e a lスクールでは、個に応じた学習を支える体制を整備してまいります。	第4章	3 多様な学びの在り方 (1) i d e a lスクール ○生徒の多様な生活・学習スタイルに応じてフレキシブルに学ぶことのできる学習者中心のi d e a lスクールの柔軟な授業時間やカリキュラムの設定、チーフーター制の導入、個に応じた学習を支える体制の有効性などの実績を踏まえ、他地域への拡充を検討します。			●
76	中学生意見聴取会	(質問：これからの高校に期待することはあるか。) アイデアルスクールにはとても興味が湧いたので、そのような学校を増やしてほしい。	生徒の多様な生活・学習スタイルに応じてフレキシブルに学ぶことのできる i d e a lスクールでは、個に応じた学習を支える体制を整備してまいります。 その実績を踏まえ、県内地域への展開や、要素の取り入れを進めていく必要があると考えております。	第4章	3 多様な学びの在り方 (1) i d e a lスクール ○生徒の多様な生活・学習スタイルに応じてフレキシブルに学ぶことのできる学習者中心のi d e a lスクールの柔軟な授業時間やカリキュラムの設定、チーフーター制の導入、個に応じた学習を支える体制の有効性などの実績を踏まえ、他地域への拡充を検討します。			●
77	中学生意見聴取会	(質問：15年後どのような高校があるといふと思うか。) 一人一人に合った高校があるといふのではないかと思う。	生徒の多様な生活・学習スタイルに応じてフレキシブルに学ぶことのできる i d e a lスクールでは、個に応じた学習を支える体制を整備してまいります。	第4章	3 多様な学びの在り方 (1) i d e a lスクール ○生徒の多様な生活・学習スタイルに応じてフレキシブルに学ぶことのできる学習者中心のi d e a lスクールの柔軟な授業時間やカリキュラムの設定、チーフーター制の導入、個に応じた学習を支える体制の有効性などの実績を踏まえ、他地域への拡充を検討します。			●

■ (仮称) 第4期県立高校将来構想答申中間案 意見聴取における対応方針

No.	意見聴取の種別	主な御意見の内容	対応方針	章	中間案	最終案 実施計画 その他		
						最終案	実施計画	その他
○ オンラインの効果的な活用による教育空間の拡張								
78	パブリックコメント	都部の進学校の石巻・気仙沼・古川・白石高校が定員割れが常態化してるので、定員をぐっと減らして、少数精銳にして都市部のナンバースクールに対抗ができるよう、きめ細かい教育をしていくべき。宮城県は良くも悪くも仙台市一極集中になっているので、もっと都部にも目を配った都市部では出来ない教育にシフトして欲しい。例えば特別支援学校みたいに先生を多めに配置したり、学習プランティアみたいにして、低予算でも特別支援学校に負けない都部ならではな教育をして欲しい。何でもかんでも仙台市を中心にし過ぎているように思う。	○参考意見とさせていただきます。 県内すべての地域で生徒の進路希望に対応できる教育環境を整備することが必要であると考えており、進学力の点では、圏域ごとに高い学力と探究力を身に付けることを目指す換点校等を配置し、進学意識の高い生徒のための教育課程の充実など、希望進路の実現に向けた学習環境を整備していく必要があると考えております。 また、オンラインの効果的な活用により、他の拠点校や中部地区の進学系高校と連携した相互交流等を通じ、進学意欲の高い生徒同士が、地元にいながらにして、切磋琢磨しながら主体的に学び、進路実現に向けた力を育むことができるよう、学習環境を整備していくことも重要であると考えております。	第4章	5 オンラインの効果的な活用による教育空間の拡張 (1) 学校間の相互配信によるオンライン授業等 ○オンラインの効果的な活用などにより、ピアグループを形成し、他の拠点校や中部地区の進学系高校と連携して、相互に配信する授業・課外講習等をピアグループの生徒が受講するほか、共通のテーマで協働して探究活動に取り組むなど、自分の学校だけでは成し得ない充実した学習環境を整備します。(再掲「2 時代のニーズに応じた高校の魅力化 (1) 普通科系の学び) ) ○オンラインを活用した学校間の連携により、探究学習や専門高校における学びの成果の共有を図るなどの学習機会を提供することを通じて、多様な生徒との交流や対話的な学びの機会の充実を図ります。			●
79	中学生意見聴取会	(質問：オンラインを使って、学校間をつないで授業を受けることをどう思うか。) 実際に受けたみたい。以前オンライン授業を受けた時は、少し不便だと感じたが、他校や海外の生徒の考え方を共有したり、比較したりして文化交流ができると思ったため。	オンラインを活用することで、学校間・地域・海外との接続という教育空間の拡張につながり、時間や場所にとらわれない柔軟な学習機会を創出しながら、教育内容の充実と授業運営等の効率化を図っています。なお、導入に当たっては、未経験の生徒が多い状況を鑑み、そういう前提に留意しながら対応していく必要があると考えております。	第4章	5 オンラインの効果的な活用による教育空間の拡張 (1) 学校間の相互配信によるオンライン授業等 ○オンラインの効果的な活用などにより、ピアグループを形成し、他の拠点校や中部地区の進学系高校と連携して、相互に配信する授業・課外講習等をピアグループの生徒が受講するほか、共通のテーマで協働して探究活動に取り組むなど、自分の学校だけでは成し得ない充実した学習環境を整備します。(再掲「2 時代のニーズに応じた高校の魅力化 (1) 普通科系の学び) ) ○オンラインを活用した学校間の連携により、探究学習や専門高校における学びの成果の共有を図るなどの学習機会を提供することを通じて、多様な生徒との交流や対話的な学びの機会の充実を図ります。			●
80	在り方説明会	今後統合が進み、学校数は半減していくと思うが、5つの圏域に普通科・専門科、アイデアル、拠点校のそれぞれが設置されるということか。	県内全ての地域において生徒の興味・関心や多様な進路希望に対応できる教育機会を確保することが必要であり、そのためオンラインも十分に活用し、どこに住んでいても質の高い学びにアクセスできる環境を整備していくことが重要であると考えております。	第3章	2 基本方針 (1) 県内全ての地域において生徒の興味・関心や多様な進路希望に対応できる教育機会を確保します。 ○オンライン教育の活用や学校間・地域との連携などにより、生徒の可能性を広げ、県内全ての地域において、希望進路の実現を可能とする教育機会を確保します。			●
81	在り方説明会	創造的再構築のイメージに「どこに住んでも質の高い学びにアクセスできる環境を整える」とあるが、これはオンライン環境の整備を指すのか、あるいはどの拠点であっても、同水準の指導を受けられる環境整備を指すのか、どちらか。	オンラインも効果的に活用しながら、県内どこに住んでも質の高い学びにアクセスできる環境を整備していくことが必要であると考えております。	第3章	2 基本方針 (1) 県内全ての地域において生徒の興味・関心や多様な進路希望に対応できる教育機会を確保します。 ○オンライン教育の活用や学校間・地域との連携などにより、生徒の可能性を広げ、県内全ての地域において、希望進路の実現を可能とする教育機会を確保します。			●
82	在り方説明会	勤務校で行っているオンライン授業について、生徒からは「良いところは何もない」と言われている。海外ではオンラインのデメリットから、対面に戻す動きもある中で、オンラインありきの方向で検討が進められることに疑問を感じる。学習面だけでなく、多様な人々と顔を合わせて繋がれる教育環境を、地域に問わらず保証してほしい。	特に小規模校においては、幅広い教科・科目を展開することが難しい場合があることから、オンラインも効果的に活用し、質の高い学びにアクセスできる環境を整えることが必要であると考えております。 オンラインの活用に当たっては、円滑な運用に向け、コンテンツ作成や技術的支援を行なうオンライン教育センター（仮）を設置していくほか、オンラインだけでなく対面によるリアルな学びも効果的に組み合わせ、学びの環境を整備していくことが重要であると考えております。	第3章	2 基本方針 (4) デジタル技術を活用した学びと、対面によるリアルな学びを効果的に組み合わせ、多様化・グローバル化する社会の中で、主体的に課題に取り組み、未来を切り拓く資質・能力を育む新たな学びの環境を整えます。 ○オンライン教育などによる場所等にとらわれない柔軟な学びと、対面による直接的なコミュニケーションや実体験を通じた学びを組み合わせることで、教育内容の充実と学習内容の確実化を定着を図るとともに、国内外の多様な価値観や文化に触れる機会などを通じて、より生徒の主体性が発揮される学習環境を充実させます。			●
83	在り方説明会	オンライン授業などの、デジタル技術の活用で使用するタブレット端末の準備を、保護者、家庭に負担させることは大きな問題である。物価高で家庭の経済事情がかなり厳しい中で、学びの保証を家庭任せにすることについてどのように考えているのか。	タブレット端末について、保護者の皆様に御負担いただくことを原則としていますが、経済的事情等により端末の準備が難しい生徒に対しては、貸出用の端末を用意します。 また、スクールメリットを効かして通常より安価に購入可能なECサイトを県で用意するほか、学校判断の下、セキュリティ等条件を満たしている端末であれば家庭からの持ち込みも可能としています。	第3章	2 基本方針 (1) 県内全ての地域において生徒の興味・関心や多様な進路希望に対応できる教育機会を確保します。 ○オンライン教育の活用や学校間・地域との連携などにより、生徒の可能性を広げ、県内全ての地域において、希望進路の実現を可能とする教育機会を確保します。			●
84	在り方説明会	「オンラインの効果的な活用などによる教育」に関して、今後、オンライン授業をどのように取り入れながら活用し、推進していくかが見通しはあるか。	同じ目的を持った県内の生徒同士をオンラインでつなぎ、学びの内容を充実させ、切磋琢磨しながらお互いを刺激し合う環境を充実させたいと考えています。 具体的な例として、地区的拠点校と中部地区の進学系高校をオンラインでつなぎ、大学進学を目指している生徒同士が一緒に学び、全体のレベルアップを図る取組を実施したいと考えています。	第4章	5 オンラインの効果的な活用による教育空間の拡張 (1) 学校間の相互配信によるオンライン授業等 ○オンラインの効果的な活用などにより、ピアグループを形成し、他の拠点校や中部地区の進学系高校と連携して、相互に配信する授業・課外講習等をピアグループの生徒が受講するほか、共通のテーマで協働して探究活動に取り組むなど、自分の学校だけでは成し得ない充実した学習環境を整備します。(再掲「2 時代のニーズに応じた高校の魅力化 (1) 普通科系の学び) ) (2) オンライン教育センター（仮）の設置 ○オンライン教育センター（仮）を拠点として、県内の学校同士や地域等との連携、海外との交流などについて支援し、学びの機会の一層の充実を図ります。			●
85	在り方説明会	現役の教員だが、オンラインの研究授業を見た時に、高校によって授業の時間帯が違う点及び教員には負担になっている点が問題であると思った。運用上の課題をどこまで検討しているのか。	現状のオンライン授業の運用において、御指摘のような課題があることは認識をしており、今後、さらに全県展開をしていく上での課題を整理し、既に取組を行っている学校で得られた知見も活かしながら改善を図ってまいります。	第4章	5 オンラインの効果的な活用による教育空間の拡張 (2) オンライン教育センター（仮）の設置 ○従来の遠隔授業の実施を通じて得られた成果や課題を整理・分析し、その知見をもとに、教材の整備、教員間の指導ノウハウの共有、オンラインシステムの安定運用体制の構築などを行なう、オンライン教育センター（仮）の効果的な運用を図ります。			●
86	中学生意見聴取会	(質問：これまでにオンライン授業を受けたことはあるか。) コロナ禍のときに何回か受けたことがある。	オンラインを活用することで、学校間・地域・海外との接続という教育空間の拡張につながることから、時間や場所にとらわれない柔軟な学習機会を創出しながら、教育内容の充実と授業運営等の効率化を図っています。なお、導入に当たっては、未経験の生徒が多い状況を鑑み、そういう前提に留意しながら対応していく必要があると考えております。	第3章	2 基本方針 (1) 県内全ての地域において生徒の興味・関心や多様な進路希望に対応できる教育機会を確保します。 ○オンライン教育の活用や学校間・地域との連携などにより、生徒の可能性を広げ、県内全ての地域において、希望進路の実現を可能とする教育機会を確保します。			●

■ (仮称) 第4期県立高校将来構想答申中間案 意見聴取における対応方針

No.	意見聴取の種別	主な御意見の内容	対応方針	章	中間案	最終案 実施計画 その他		
						最終案	実施計画	その他
87	中学生意見聴取会	(質問：これまでにオンライン授業を受けたことはあるか。) 学校ではないが、体調不良時に塾の授業をオンラインで受けたことがある。	病気等により長期間療養のため登校できない生徒に対しては、生徒・保護者の意向も踏まえた上で、家庭や病室や教室をオンラインでつなぎリアルタイムで授業を受ける対応も行っているところですが、そういうたったデジタル技術を活用した学習支援に引き続き取り組む必要があると考えております。	第4章	1 岐阜県立高校教育の質の向上の方向性 (4) 教育DXの推進 ○ 登校に不安を抱えている生徒や、病気等により長期間療養のため登校できない生徒に対しては、生徒・保護者の意向も踏まえた上で、家庭や病室や教室をオンラインでつなぎリアルタイムで授業を受けることや、オンデマンド配信を活用して学習を進めるなど、デジタル技術を活用した学習支援に引き続き取り組みます。			●
88	中学生意見聴取会	(質問：これまでにオンライン授業を受けたことはあるか。) 小学校の時に、コロナ禍で休んだ時にオンラインで授業に参加したが、先生の話が聞こえづらかったり、黒板があまり見えなかつたりしたので、少し不便だった。	オンラインを活用することで、学校間・地域・海外との接続という教育空間の拡張につながることから、時間や場所にとらわれない柔軟な学習機会を創出しながら、教育内容の充実と授業運営等の効率化を図ってまいります。なお、導入に当たっては、未経験の生徒が多い状況を鑑み、そういうたった前提に留意しながら対応していく必要があると考えております。	第3章	2 基本方針 (1) 岐阜県内全ての地域において生徒の興味・関心や多様な進路希望に対応できる教育機会を確保します。 ○ オンライン教育の活用や学校間・地域との連携などにより、生徒の可能性を広げ、県内全ての地域において、希望進路の実現を可能とする教育機会を確保します。			●
89	中学生意見聴取会	(質問：これまでにオンライン授業を受けたことはあるか。) コロナ禍を含めて一度もない。授業を配信されたこともない。	オンラインを活用することで、学校間・地域・海外との接続という教育空間の拡張につながることから、時間や場所にとらわれない柔軟な学習機会を創出しながら、教育内容の充実と授業運営等の効率化を図ってまいります。なお、導入に当たっては、未経験の生徒が多い状況を鑑み、そういうたった前提に留意しながら対応していく必要があると考えております。	第3章	2 基本方針 (1) 岐阜県内全ての地域において生徒の興味・関心や多様な進路希望に対応できる教育機会を確保します。 ○ オンライン教育の活用や学校間・地域との連携などにより、生徒の可能性を広げ、県内全ての地域において、希望進路の実現を可能とする教育機会を確保します。			●
90	中学生意見聴取会	(質問：これまでにオンライン授業を受けたことはあるか。) 受けたことはある。普段の授業と比べて集中することができなかった。また、質問をしづらいと感じた。	オンラインを活用することで、学校間・地域・海外との接続という教育空間の拡張につながることから、時間や場所にとらわれない柔軟な学習機会を創出しながら、教育内容の充実と授業運営等の効率化を図ってまいります。なお、導入に当たっては、未経験の生徒が多い状況を鑑み、そういうたった前提に留意しながら対応していく必要があると考えております。	第3章	2 基本方針 (4) デジタル技術を活用した学びと、対面によるリアルな学びを効果的に組み合わせ、多様化・グローバリ化する社会の中で、主体的に課題に取り組み、未来を切り拓く資質・能力を育む新たな学びの環境を整えます。			●
91	中学生意見聴取会	(質問：これまでにオンライン授業を受けたことはあるか。) 小学生の時に、病気により1週間程度学校に行けなかった時に利用した経験がある。自宅内に迷惑があり、学校で直接授業を受けるよりも内容が頭に入ってこなかったため、学校で直接授業を受ける方が良い。オンライン授業で単位が取れるとしても学校に直接行って授業を受けたい。	オンラインを活用することで、学校間・地域・海外との接続という教育空間の拡張につながることから、時間や場所にとらわれない柔軟な学習機会を創出しながら、教育内容の充実と授業運営等の効率化を図ってまいります。なお、導入に当たっては、未経験の生徒が多い状況を鑑み、そういうたった前提に留意しながら対応していく必要があると考えております。	第3章	2 基本方針 (4) デジタル技術を活用した学びと、対面によるリアルな学びを効果的に組み合わせ、多様化・グローバリ化する社会の中で、主体的に課題に取り組み、未来を切り拓く資質・能力を育む新たな学びの環境を整えます。			●
92	中学生意見聴取会	(質問：オンラインを使って、学校間をつないで授業を受けることをどう思うか。) そのような授業は受けたいと思わない。校内の友達との交流で満足できると思うためである。対面など、直接の交流であれば受けけてみたい。	オンラインを活用することで、学校間・地域・海外との接続という教育空間の拡張につながっていますが、それだけではなく、デジタル技術を活用した学びと、対面によるリアルな学びを効果的に組み合わせ、県内どこに住んでも質の高い学びにアクセスできる環境を整備してまいります。	第3章	2 基本方針 (4) デジタル技術を活用した学びと、対面によるリアルな学びを効果的に組み合わせ、多様化・グローバリ化する社会の中で、主体的に課題に取り組み、未来を切り拓く資質・能力を育む新たな学びの環境を整えます。			●
93	中学生意見聴取会	(質問：オンラインを使って、学校間をつないで授業を受けることをどう思うか。) 電波が途中で悪くなってしまうことが気になる。授業が終わった後に、画面越しの先生や友達と直接話せないことも気になる。	デジタル技術を活用した学びと、対面によるリアルな学びを効果的に組み合わせ、県内どこに住んでも質の高い学びにアクセスできる環境を整備してまいります。また、オンライン教育センター（仮）を設置し、オンラインシステムの安定運用体制を構築してまいります。	第3章 第4章	第3章2 基本方針 (4) デジタル技術を活用した学びと、対面によるリアルな学びを効果的に組み合わせ、多様化・グローバリ化する社会の中で、主体的に課題に取り組み、未来を切り拓く資質・能力を育む新たな学びの環境を整えます。 第4章5 オンラインの効果的な活用による教育空間の拡張 (2) オンライン教育センター（仮）の設置 ○ 従来の遠隔授業の実施を通じて得られた成果や課題を整理・分析し、その見をもとに、教材の整備、教員間の指導ノウハウの共有、オンラインシステムの安定運用体制の構築などを行い、オンライン教育センター（仮）の効果的な運用を図ります。			●
94	中学生意見聴取会	(質問：オンラインを使って、学校間をつないで授業を受けることをどう思うか。) 海外とつながるような授業を受けてみたい。いろいろな文化を学んでみたいし、英語でやり取りしたい。	オンラインを活用することで、学校間・地域・海外との接続という教育空間の拡張につながることから、時間や場所にとらわれない柔軟な学習機会を創出しながら、教育内容の充実と授業運営等の効率化を図ってまいります。なお、導入に当たっては、未経験の生徒が多い状況を鑑み、そういうたった前提に留意しながら対応していく必要があると考えております。	第4章	5 オンラインの効果的な活用による教育空間の拡張 (1) 学校間の相互配信によるオンライン授業等 ○ オンラインの効果的な活用などにより、ビッググループを形成し、他の拠点校や中部地区の進学系高校と連携して、相互に配信する授業・課外講習等をビッググループの生徒が受講するほか、共通のテーマで協働して探究活動に取り組むなど、自分の学校だけでは成し得ない充実した学習環境を整備します。（再掲「2 時代のニーズに対応した高校の魅力化（1）普通科系の学び」） (2) オンライン教育センター（仮）の設置 ○ オンライン教育センター（仮）を拠点として、県内の学校同士や地域等との連携、海外との交流などについて支援し、学びの機会の一層の充実を図ります。			●
95	中学生意見聴取会	(質問：オンラインを使って、学校間をつないで授業を受けることをどう思うか。) すごく良いと思う。受けてみたい。	オンラインを活用することで、学校間・地域・海外との接続という教育空間の拡張につながることから、時間や場所にとらわれない柔軟な学習機会を創出しながら、教育内容の充実と授業運営等の効率化を図ってまいります。なお、導入に当たっては、未経験の生徒が多い状況を鑑み、そういうたった前提に留意しながら対応していく必要があると考えております。	第4章	5 オンラインの効果的な活用による教育空間の拡張 (1) 学校間の相互配信によるオンライン授業等 ○ オンラインの効果的な活用などにより、ビッググループを形成し、他の拠点校や中部地区の進学系高校と連携して、相互に配信する授業・課外講習等をビッググループの生徒が受講するほか、共通のテーマで協働して探究活動に取り組むなど、自分の学校だけでは成し得ない充実した学習環境を整備します。（再掲「2 時代のニーズに対応した高校の魅力化（1）普通科系の学び」） (2) オンライン教育センター（仮）の設置 ○ オンライン教育センター（仮）を拠点として、県内の学校同士や地域等との連携、海外との交流などについて支援し、学びの機会の一層の充実を図ります。			●

■ (仮称) 第4期県立高校将来構想答申中間案 意見聴取における対応方針

No.	意見聴取の種別	主な御意見の内容	対応方針	章	中間案	最終案 実施計画 その他		
						最終案	実施計画	その他
96	中学生意見聴取会	(質問：オンラインを使って、学校間をつないで授業を受けることをどう思うか。) いくつかの拠点校のうち、勉強についていけなくなる学校が出てきたら可哀想だと思う。	オンラインを活用することで、学校間、地域、海外との接続という教育空間の拡張につながりますが、それだけではなく、デジタル技術を活用した学び、対面によるリアルな学びを効果的に組み合わせ、県内どこに住んでも質の高い学びにアクセスできる環境を整備してまいります。	第4章	5 オンラインの効果的な活用による教育空間の拡張 (1) 学校間の相互配信によるオンライン授業等 ○オンラインの効果的な活用などにより、ピアグループを形成し、他の拠点校や中部地区の進学系高校と連携して、相互に配信する授業、課外講習等をピアグループの生徒が受講するほか、共通のテーマで協働して探究活動に取り組むなど、自分の学校だけでは成し得ない充実した学習環境を整備します。（再掲「2 時代のニーズに対応した高校の魅力化（1）普通科系の学び」） (2) オンライン教育センター（仮）の設置 ○オンライン教育センター（仮）を拠点として、県内の学校同士や地域等との連携、海外との交流などについて支援し、学びの機会の一層の充実を図ります。			●
97	中学生意見聴取会	(質問：オンラインを使って、学校間をつないで授業を受けることをどう思うか。) 偏差値の高い高校が仙台にあるので、それぞの地域でも、仙台の高校で行っている教育活動が受けられるなど良い。各地域に、ある程度偏差値の高い高校が欲しいが、1つの高校でいろんな人がいる（学力的に幅がある）高校も良い。	オンラインを活用することで、学校間、地域、海外との接続という教育空間の拡張につながることから、時間や場所にとらわれない柔軟な学習機会を創出しながら、教育内容の充実と授業運営等の効率化を図ってまいります。なお、導入に当たっては、未経験の生徒が多い状況を鑑み、そといった前提に留意しながら対応していく必要があると考えております。	第4章	5 オンラインの効果的な活用による教育空間の拡張 (1) 学校間の相互配信によるオンライン授業等 ○オンラインの効果的な活用などにより、ピアグループを形成し、他の拠点校や中部地区の進学系高校と連携して、相互に配信する授業、課外講習等をピアグループの生徒が受講するほか、共通のテーマで協働して探究活動に取り組むなど、自分の学校だけでは成し得ない充実した学習環境を整備します。（再掲「2 時代のニーズに対応した高校の魅力化（1）普通科系の学び」） (2) オンライン教育センター（仮）の設置 ○オンライン教育センター（仮）を拠点として、県内の学校同士や地域等との連携、海外との交流などについて支援し、学びの機会の一層の充実を図ります。			●
98	中学生意見聴取会	(質問：オンラインを使って、学校間をつないで授業を受けることをどう思うか。) 同じ目的を持った生徒とネットワークができるのは嬉しい。また、海外の生徒とコミュニケーションをとることも楽しそうである。文法等中心の授業だけではなく、実用的な英語を学べることも魅力的だし、留学を考えるきっかけにもなりそうだ。	オンラインを活用することで、学校間、地域、海外との接続という教育空間の拡張につながることから、時間や場所にとらわれない柔軟な学習機会を創出しながら、教育内容の充実と授業運営等の効率化を図ってまいります。なお、導入に当たっては、未経験の生徒が多い状況を鑑み、そといった前提に留意しながら対応していく必要があると考えております。	第4章	5 オンラインの効果的な活用による教育空間の拡張 (1) 学校間の相互配信によるオンライン授業等 ○オンラインの効果的な活用などにより、ピアグループを形成し、他の拠点校や中部地区の進学系高校と連携して、相互に配信する授業、課外講習等をピアグループの生徒が受講するほか、共通のテーマで協働して探究活動に取り組むなど、自分の学校だけでは成し得ない充実した学習環境を整備します。（再掲「2 時代のニーズに対応した高校の魅力化（1）普通科系の学び」） (2) オンライン教育センター（仮）の設置 ○オンライン教育センター（仮）を拠点として、県内の学校同士や地域等との連携、海外との交流などについて支援し、学びの機会の一層の充実を図ります。			●
99	中学生意見聴取会	(質問：オンラインで、遠くの地域の人や海外の人と交流することをどう思うか。) オンライン授業の経験はない。実際に現地の人と会話することが語学力の向上につながると思うので機会があればやってみたい。	オンラインを活用することで、学校間、地域、海外との接続という教育空間の拡張につながることから、時間や場所にとらわれない柔軟な学習機会を創出しながら、教育内容の充実と授業運営等の効率化を図ってまいります。なお、導入に当たっては、未経験の生徒が多い状況を鑑み、そといった前提に留意しながら対応していく必要があると考えております。	第4章	5 オンラインの効果的な活用による教育空間の拡張 (1) 学校間の相互配信によるオンライン授業等 ○オンラインの効果的な活用などにより、ピアグループを形成し、他の拠点校や中部地区の進学系高校と連携して、相互に配信する授業、課外講習等をピアグループの生徒が受講するほか、共通のテーマで協働して探究活動に取り組むなど、自分の学校だけでは成し得ない充実した学習環境を整備します。（再掲「2 時代のニーズに対応した高校の魅力化（1）普通科系の学び」） (2) オンライン教育センター（仮）の設置 ○オンライン教育センター（仮）を拠点として、県内の学校同士や地域等との連携、海外との交流などについて支援し、学びの機会の一層の充実を図ります。			●
100	中学生意見聴取会	(質問：オンラインで、遠くの地域の人や海外の人と交流することをどう思うか。) おもしろそうである。仕事に対する視野が広がりそうである。	オンラインを活用することで、学校間、地域、海外との接続という教育空間の拡張につながることから、時間や場所にとらわれない柔軟な学習機会を創出しながら、教育内容の充実と授業運営等の効率化を図ってまいります。こうしたことを通じ、将来の進路選択の幅も広げていきたいと考えております。なお、導入に当たっては、未経験の生徒が多い状況を鑑み、そといった前提に留意しながら対応していく必要があると考えております。	第4章	5 オンラインの効果的な活用による教育空間の拡張 (1) 学校間の相互配信によるオンライン授業等 ○オンラインの効果的な活用などにより、ピアグループを形成し、他の拠点校や中部地区の進学系高校と連携して、相互に配信する授業、課外講習等をピアグループの生徒が受講するほか、共通のテーマで協働して探究活動に取り組むなど、自分の学校だけでは成し得ない充実した学習環境を整備します。（再掲「2 時代のニーズに対応した高校の魅力化（1）普通科系の学び」） (2) オンライン教育センター（仮）の設置 ○オンライン教育センター（仮）を拠点として、県内の学校同士や地域等との連携、海外との交流などについて支援し、学びの機会の一層の充実を図ります。			●
○ 持続可能な学校教育の推進－教育環境の充実								
101	パブリックコメント	校舎の改築がナンバースクール以外進んでおらず、頭いい高校だけ差別的に取り扱っている。中堅校や底辺校も随時建て替えを検討すべき。中学生が学校説明会に行つて、○○高校はトイレが臭いと言うところを教高聞きます。いくら掃除しても、築が古くておしゃこの刺激臭がこびりついているところも少なくないので検討すべき。特に仙台向山高校は場所柄高差もあり、仙台市最古の校舎なので、早急に検討して欲しい。	○御意見として承ります。 将来構想を推進していく上で、再構築後の学びに必要な教育環境の充実を図っていくこととしております。	第5章	2 持続可能な学校教育の推進 (5) 教育環境の充実 ○生徒が安心して学ぶことができるよう、教員を的確に配置するとともに、校舎・実習施設等の計画的な整備や、学習内容・教育手法の変化に対応した設備の導入など、再構築後の学びに必要な教育環境の充実を図ります。			●
102	在り方説明会	校舎の老朽化との兼ね合いについて、「科学技術高校の設置を検討する」または「通信制高校の増設」との記載があるが、これは新設なのか改築なのか。	現在と異なる場所に設置する新設か、現在の場所に建替等を行う改築かという点は、具体的な配置を決定する際に併せて検討することとなります。	第5章	2 持続可能な学校教育の推進 (5) 教育環境の充実 ○生徒が安心して学ぶことができるよう、教員を的確に配置するとともに、校舎・実習施設等の計画的な整備や、学習内容・教育手法の変化に対応した設備の導入など、再構築後の学びに必要な教育環境の充実を図ります。			●
103	在り方説明会	実業系は設備や教員の問題で、学校間格差が出やすいため、地域間差が生じないよう、設備や教員に関して充実させていくのか。	将来構想の推進の上で、再構築後の学びに必要な教育環境の充実を図っていくことが必要であると考えております。	第5章	2 持続可能な学校教育の推進 (5) 教育環境の充実 ○生徒が安心して学ぶことができるよう、教員を的確に配置するとともに、校舎・実習施設等の計画的な整備や、学習内容・教育手法の変化に対応した設備の導入など、再構築後の学びに必要な教育環境の充実を図ります。			●

■ (仮称) 第4期県立高校将来構想答申中間案 意見聴取における対応方針

No.	意見聴取の種別	主な御意見の内容	対応方針	章	中間案	最終案 実施計画 その他		
						最終案	実施計画	その他
○ 入学者選抜の在り方								
104	パブリックコメント	入試制度について、現行の入試制度に関して、内申制度自体が女子優位に出来ており、男子が不利に働いている。もっと男子を公平な視点で評価するようなジャッジが出来る制度に変えるべき。	○御意見として承ります。	第5章	3 入学者選抜の在り方 ○ 高校教育の創造的再構築の実現に向けては、入学者選抜についても、各学校の特色に応じ、生徒の多様な資質・能力を多面的にとらえることができるよう、全国募集の拡充、多様な人材を受け入れることが可能となる選抜制度など、選抜方法等について総合的に検討する必要があります。			●
105	在り方説明会	「入学者選抜の在り方」について、例えば、全県一斉に実施しないとか、特色のある学校は日程を変えるなど、学校独自の入試があっても良いのではないか。	高校教育の創造的再構築の実現に向け、入学者選抜については、各学校の特色に応じ、生徒の多様な資質・能力が多面的にとらえることができるよう選抜方法等について総合的に検討していく必要があるものと考えております。	第5章	3 入学者選抜の在り方 ○ 高校教育の創造的再構築の実現に向けては、入学者選抜についても、各学校の特色に応じ、生徒の多様な資質・能力を多面的にとらえることができるよう、全国募集の拡充、多様な人材を受け入れることが可能となる選抜制度など、選抜方法等について総合的に検討する必要があります。			●
106	在り方説明会	入試のあり方について、他県では、第2志望まで選択可能であり、第1志望は不合格でも第2志望に合格できるということも聞いているが、宮城県では今後どのようになるか。	いわゆる併願制については、現在、国において検討を行っているものと承知しており、メリット・デメリットの両面があることから、その動向や検討結果を踏まえ、県教委としても検討を行う必要があるものと考えております。	第5章	3 入学者選抜の在り方 ○ 高校教育の創造的再構築の実現に向けては、入学者選抜についても、各学校の特色に応じ、生徒の多様な資質・能力を多面的にとらえることができるよう、全国募集の拡充、多様な人材を受け入れることが可能となる選抜制度など、選抜方法等について総合的に検討する必要があります。			●
107	在り方説明会	南三陸高校で行われている全国募集は、今後全国的に進めていく方針か。	全国募集については、その教育的效果を踏まえつつ、各学校の特色に応じて生徒の多様な資質・能力を多面的にとらえることができるよう、入学者選抜の在り方と合わせて検討していく必要があると考えております。	第5章	3 入学者選抜の在り方 ○ 高校教育の創造的再構築の実現に向けては、入学者選抜についても、各学校の特色に応じ、生徒の多様な資質・能力を多面的にとらえることができるよう、全国募集の拡充、多様な人材を受け入れることが可能となる選抜制度など、選抜方法等について総合的に検討する必要があります。			●